

# 市民目線のニーズ探究調査

## 中間報告

令和6年度～7年度実施

令和7年3月28日

政策経営局経営戦略課

明日をひらく都市

OPEN × PIONEER

YOKOHAMA

## 目次

### I 「市民目線のニーズ探究調査」の目的・概要

### II 調査の状況

#### 1 若者世代意識調査

#### 2 市民生活・needs調査<その1>

#### 3 パマトコ利用者調査

# I 「市民目線のニーズ探究調査」の目的・概要

## 1 本調査の目的

令和6年度は「横浜市中期計画2022-2025」の中間振り返り(令和6年9月)において、市民インタビューを初めて実施しました。当該振り返りにおいても、今後も引き続き、市民目線での政策推進に向け、あらゆる機会を捉えて、多様な手段により市民意見を把握することとしています。

本調査は、今年度から計画最終年度となる7年度にかけて、新たな調査の積極導入や従来調査の転換を測りながら、市民の皆様の暮らし・意識をはじめ、行政への満足度はもとより、不満足なところにも目をそらさず焦点をあて、重層的に実施しています。

この度、本調査について、中間報告を取りまとめましたので、公表します。

なお、令和7年度は、6年度に実施した調査内容の引き続きの分析や新たな調査を通じ、市民の皆様の安心感を高め、「人にやさしいまち」「出かけたくなるまち」「世界を魅了するまち」に向け、短期的な対策のみならず、横浜の持続的な発展に向け中長期的に必要な政策に繋げていきます。

# 「市民目線のニーズ探究調査」の全体像

【令和6年度】

重層的な調査による  
丁寧な市民ニーズの把握

若者世代意識調査

市民生活・needs調査<その1>※1

パマトコ利用者調査

2年間での継続分析

市民全体の  
ニーズを軸に  
更なる分析調査

【市民生活の現状・ニーズの把握】  
若者世代のニーズ把握  
子育て世帯のニーズ把握

【令和7年度】

更なる調査や様々なデータに基づき  
市民ニーズをその背景まで分析

市民生活・needs調査<その1>

市民生活・needs調査<その2>

⋮

【市民ニーズの分析】  
市民(全世代)のニーズ把握  
日々の生活の満足度の要因分析  
行政への満足度の要因分析  
課題解決の方向性の検討

政策・施策の検討

徹底した市民目線での  
政策・施策の推進

人にやさしいまち

出かけたくなるまち

世界を魅了するまち

7年度予算案の特徴※2より

※1 市民生活・needs調査<その1>は、「市民意識調査(令和6年度実施)」として実施

※2 7年度予算案公表URL  
<https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/zaisei/jokyo/yosan/r7/r7.files/R7yosan.pdf>

# I 「市民目線の二ーズ探究調査」の目的・概要

## 2 本調査の構成

市民の皆様の暮らしや意識等について、多面的な把握・分析に資するよう、以下の4つの調査を重層的に実施しています。

### ①若者世代意識調査(量的調査&質的調査)

一般的に、現在の社会や行政に不満を抱いていると言われる若者世代に対し、内面的な意識や考え方等について把握するため、本市に在住の15歳から34歳の市民の皆様にアンケート調査を行いました。また、民間のモニターから抽出したインタビュー調査も実施し、若者世代の定住促進や市内就業等にもつながる必要な政策等に生かすために実施しました。

### ②市民生活・needs調査<その1>(量的調査)

従来 of 市民意識調査で実施していた、市民の生活や暮らしの状況、横浜への愛着、定住意向などを引き続き把握しつつ、これまで把握してこなかった、行政への不満足なところにも焦点をあてた調査へと質的な転換を図り、市民生活等の基礎的・全体的な現状把握や、これからの市政推進において、留意していくべき事項をできる限り客観的に捉えていくことを通じ、横浜の持続的な発展に向けて、短期的対策のならず、中長期的に必要な政策等に生かすために実施しました。

### ③パマトコ利用者調査(量的調査)

子育て世代に対し、本市が進めている取組への満足度や、さらに期待するところ、不満なところ等について把握します。また、中期計画に掲げた基本戦略の実現に向け、さらに期待するところ、不満なところ等への解決に向け、可能なものから、順次政策や7年度予算に反映するために実施しました。

### ④更なる分析・調査 ~令和7年度

市民生活・needs調査<その2>など ①~③の調査に関する分析及び深掘りを実施しています。

## 3 中間報告について

本調査は7年度まで継続して実施していますが、本報告では、調査を構成する各調査の状況を抜粋して掲載しています。

## Ⅱ 調査の状況 1 若者世代意識調査

### 1 調査名称

若者世代意識調査

### 2 調査目的

一般的に、現在の社会や行政に不満を抱いていると言われる若者世代に対し、内面的な意識や考え方等について把握するため、市に在住の15歳から34歳の市民の皆様アンケート調査を行いました。

また、民間のモニターから抽出したインタビュー調査も実施し、若者世代の定住促進や市内就業等にもつながる必要な政策等に生かすために実施しました。

### 3 調査対象

#### (1) アンケート調査

【調査地域】 横浜市全域

【調査対象】 横浜市内に居住する15歳～34歳の男女個人

【抽出人数】 10,000人

【抽出方法】 住民基本台帳から単純無作為抽出

【調査方法】 インターネット回答方式

【調査期間】 令和6年11月～12月

【回収結果】 2,713件(回収率27.1%)

#### (2) インタビュー調査

【調査対象】 横浜市に居住する20歳～34歳の男女個人※

【対象人数】 19名

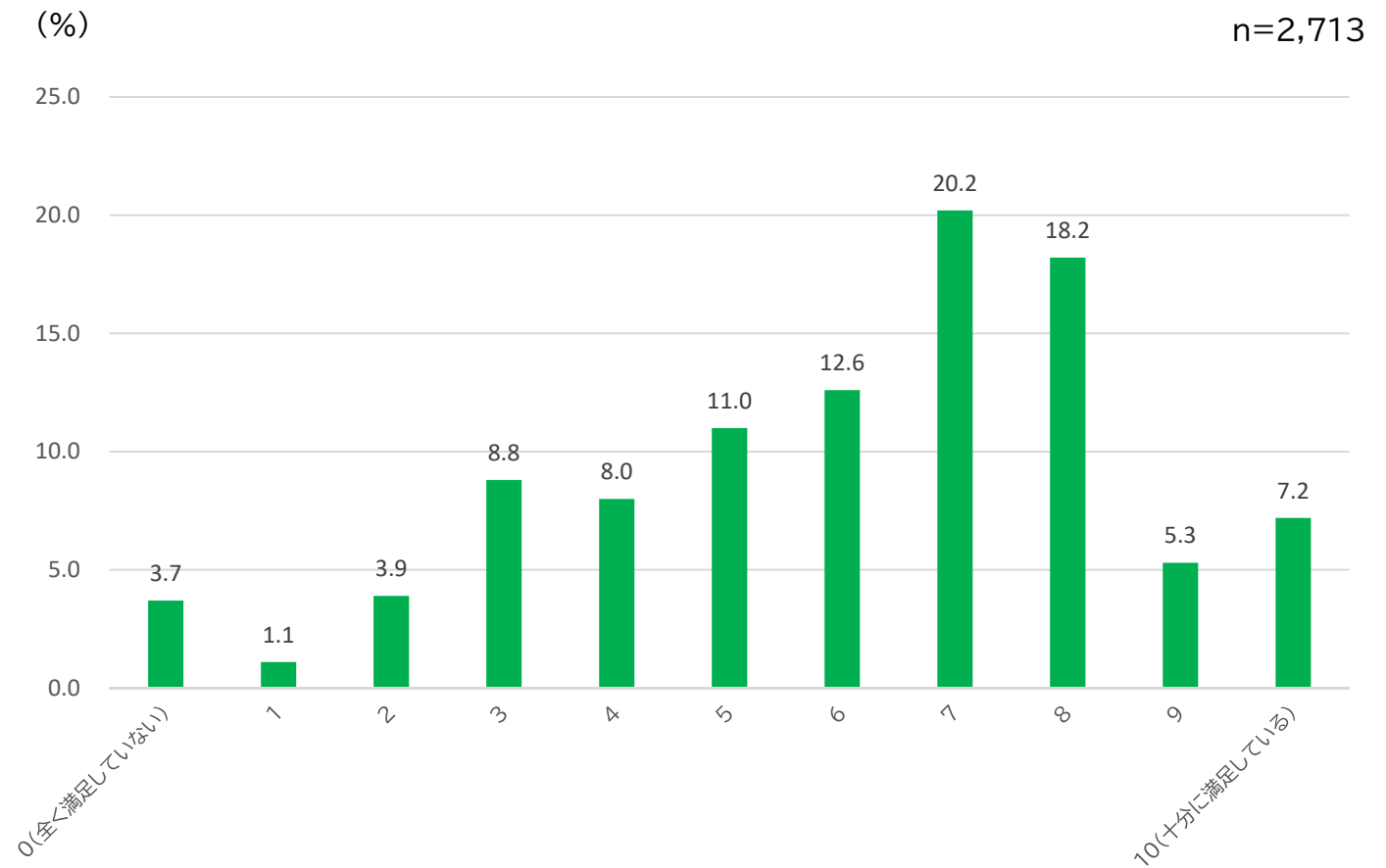
【調査期間】 令和7年1月

## Ⅱ 調査の状況 1 若者世代意識調査(アンケート)

### 4 調査の状況(アンケート)

#### (1) 生活満足度

あなたは最近の生活に、どのくらい満足していますか。  
「0(まったく満足していない)」から「10(十分に満足している)」の数字を選んでください。





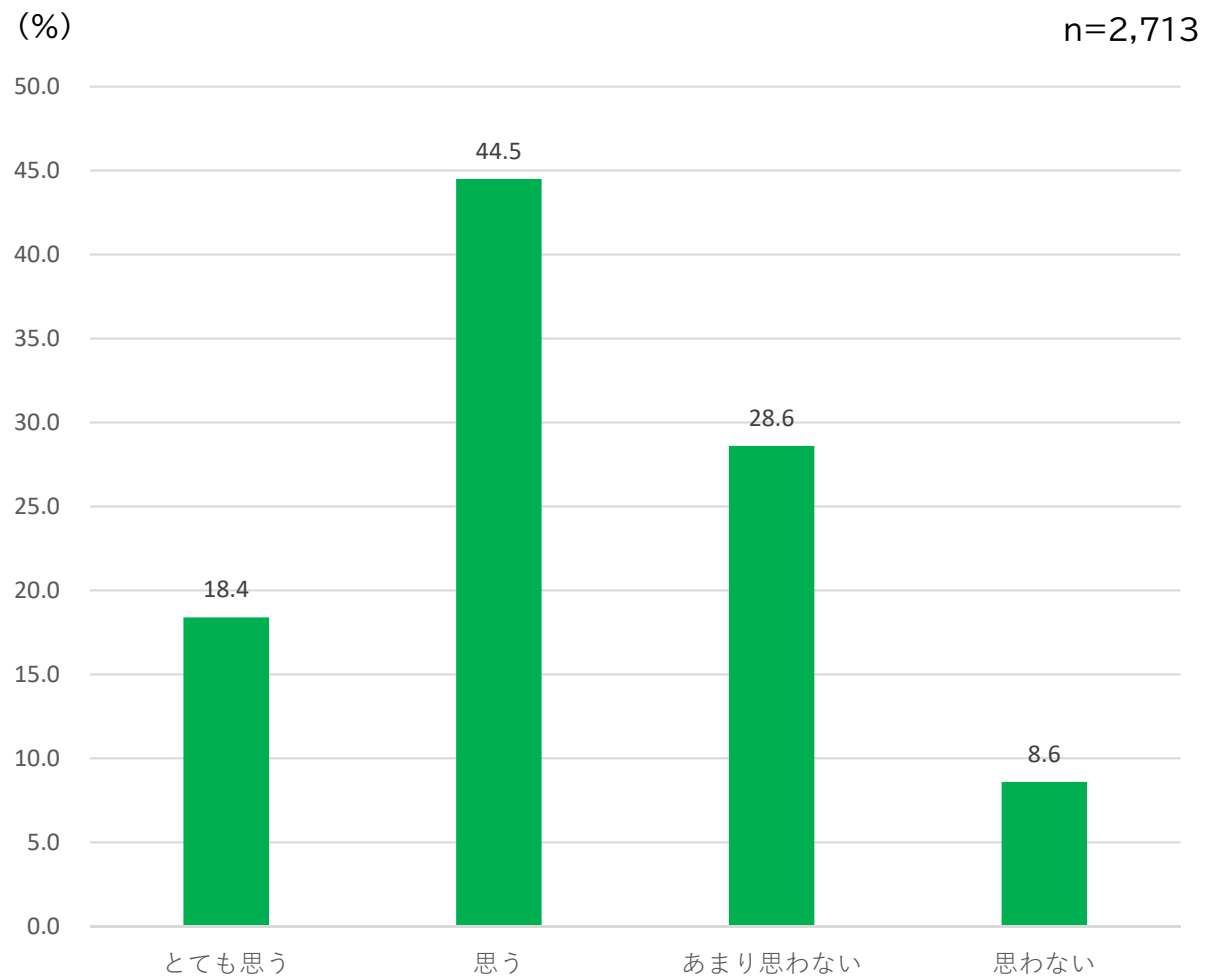
## Ⅱ 調査の状況 1 若者世代意識調査(アンケート)

### 4 調査の状況(アンケート)

#### (2) 自分肯定感

あなたの思いや気持ちについて、次のことがどのくらいあてはまりますか。それぞれの項目について、もっともあてはまるものを1つだけ選んでください。

【自分のことが好きだ】



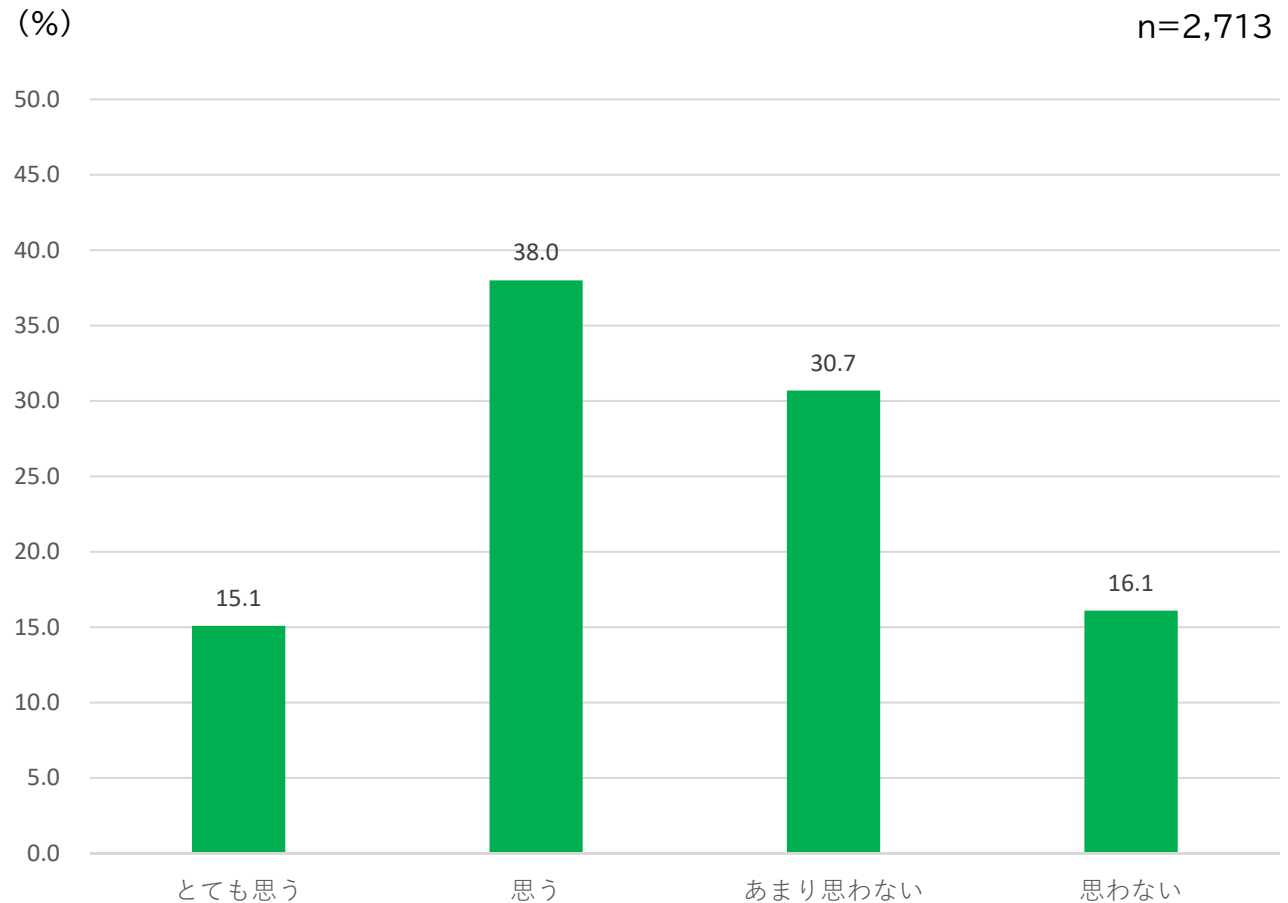
## Ⅱ 調査の状況 1 若者世代意識調査(アンケート)

### 4 調査の状況(アンケート)

#### (3) 自己効力感

あなたの思いや気持ちについて、次のことがどのくらいあてはまりますか。  
それぞれの項目について、もっともあてはまるものを1つだけ選んでください。

【自分の将来が楽しみ】

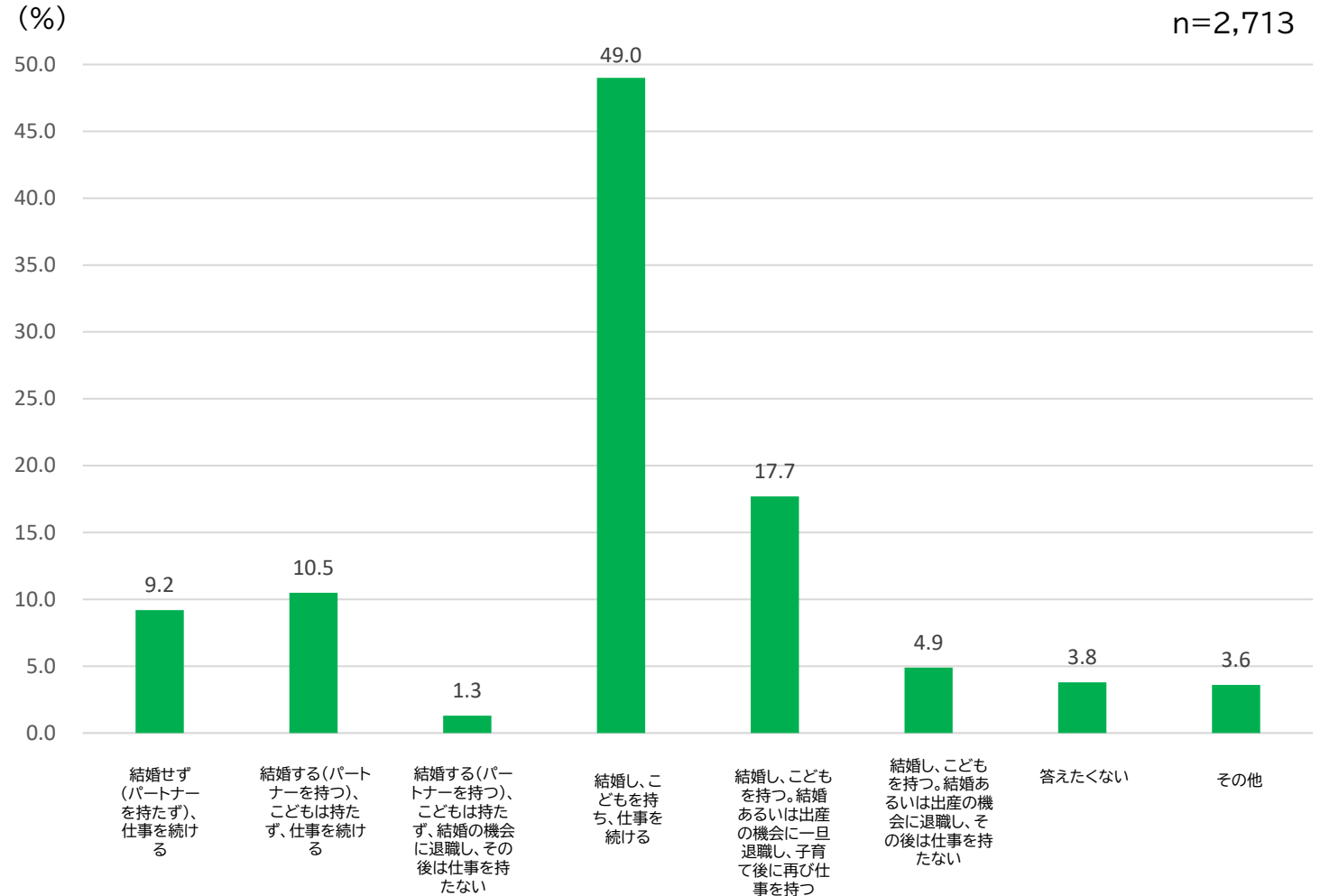


## Ⅱ 調査の状況 1 若者世代意識調査(アンケート)

### 4 調査の状況(アンケート)

#### (4)-1 理想の生き方と実際になりそうな生き方

子育てと仕事との関係で、あなたの理想の生き方は次のどれですか。最も近いと思われるものを1つだけ選んでください。

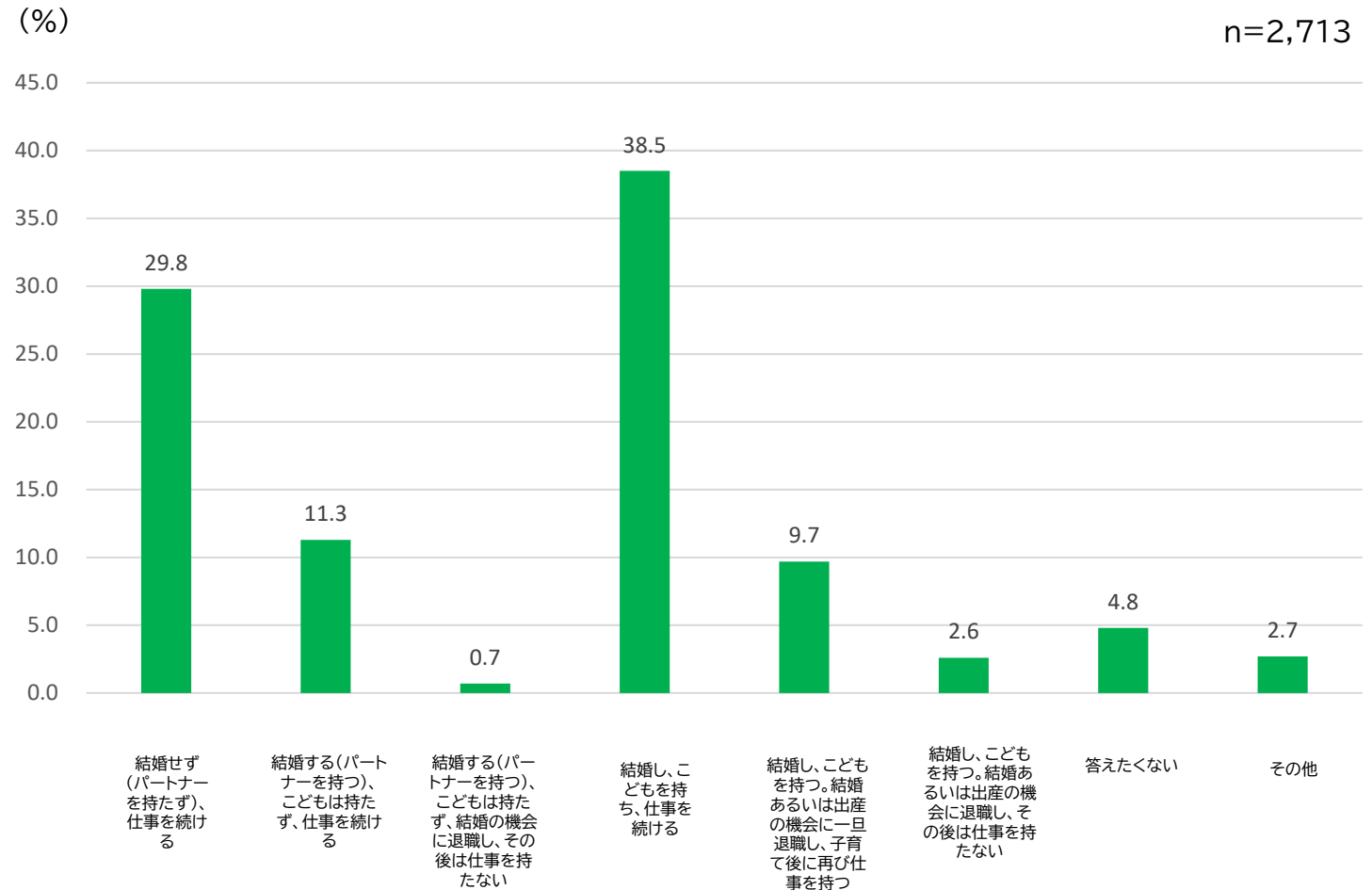


## Ⅱ 調査の状況 1 若者世代意識調査(アンケート)

### 4 調査の状況(アンケート)

#### (4)-2 理想の生き方と実際になりそうな生き方

子育てと仕事との関係で、理想は理想として、実際になりそうな(既になっている)生き方は次のどれですか。最も近いと思われるものを1つだけ選んでください。

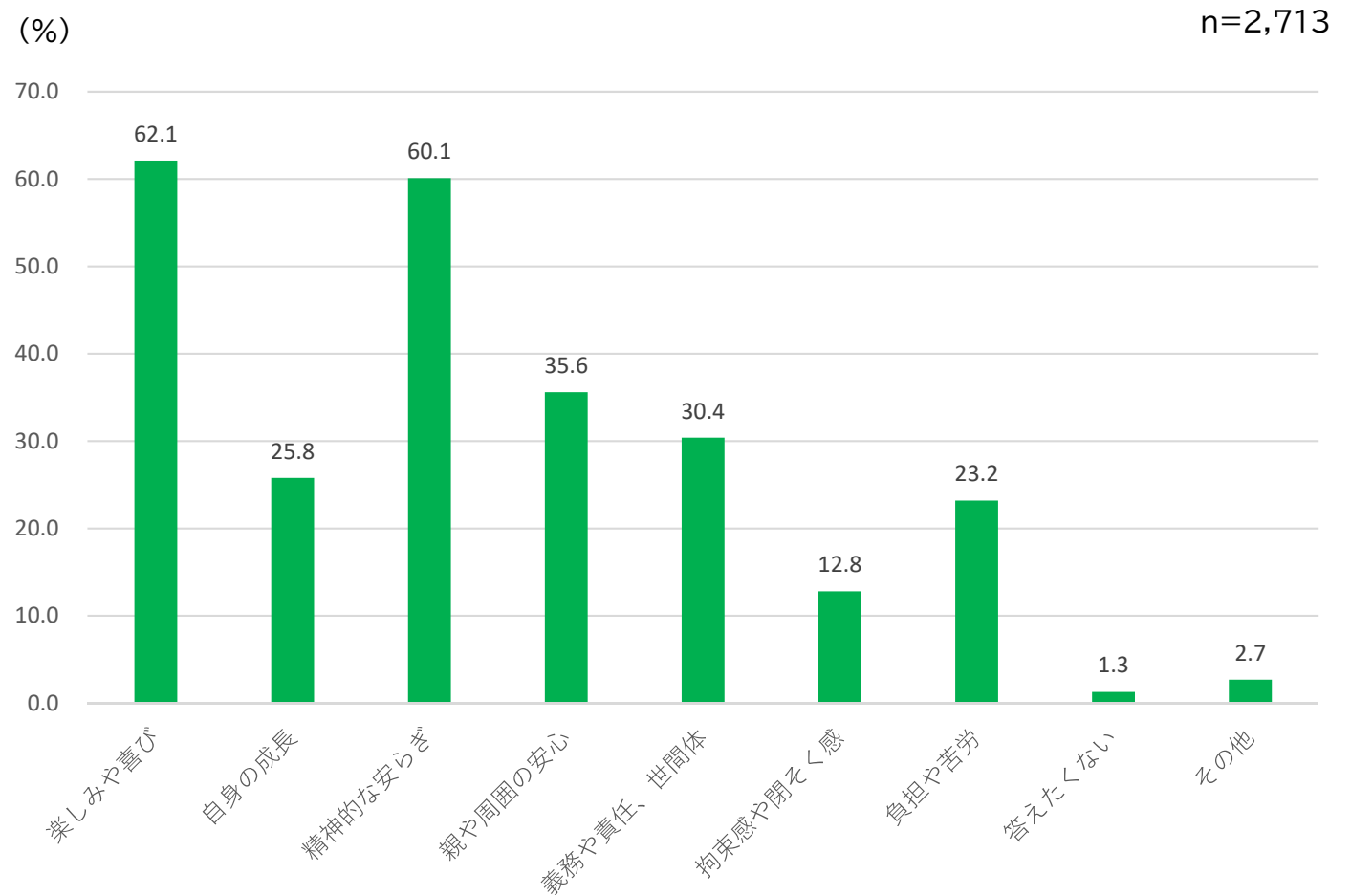


## Ⅱ 調査の状況 1 若者世代意識調査(アンケート)

### 4 調査の状況(アンケート)

#### (5) 結婚のイメージ

あなたが思う結婚のイメージはどのようなものですか。あてはまるものを3つまで選んでください。

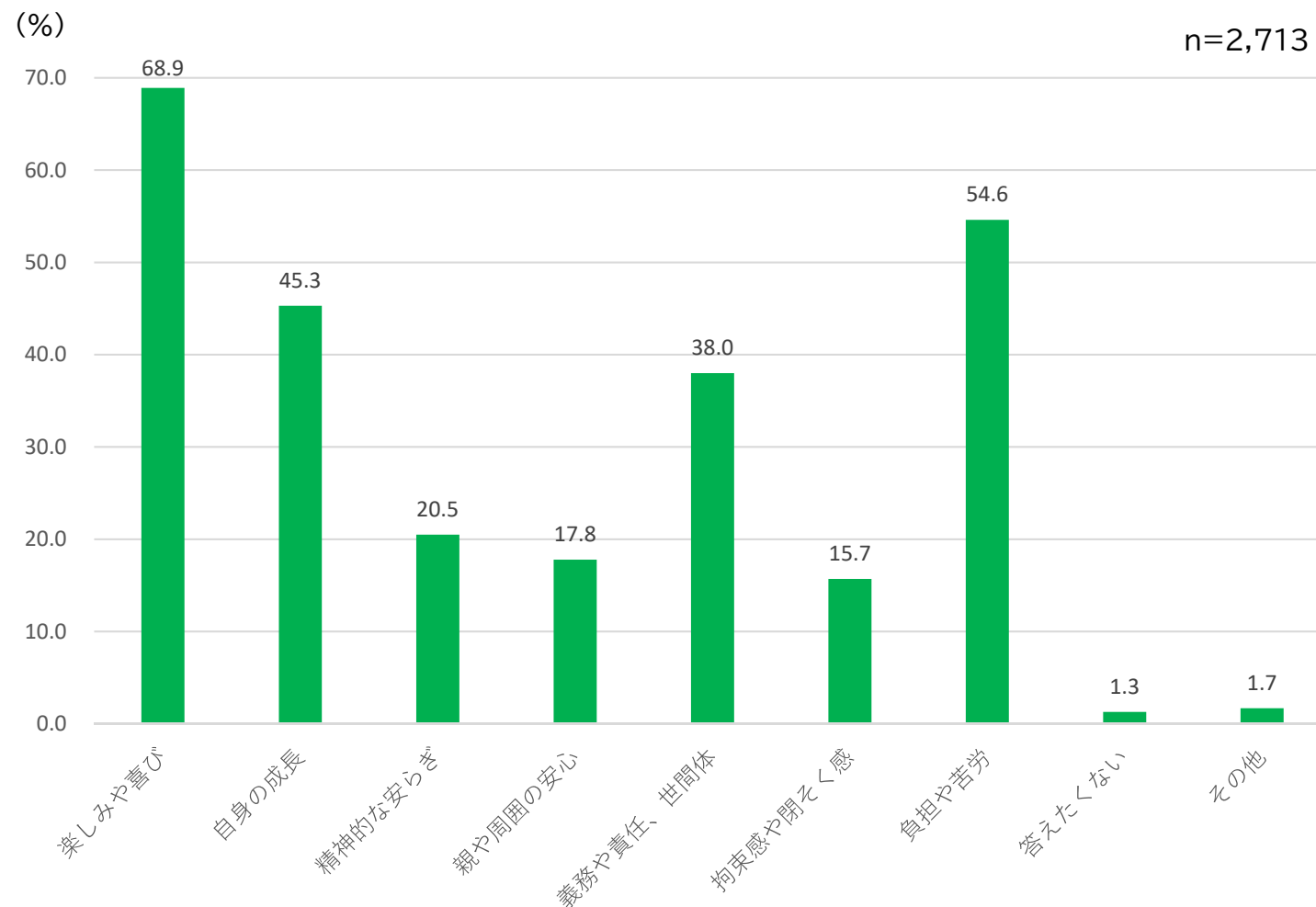


## Ⅱ 調査の状況 1 若者世代意識調査(アンケート)

### 4 調査の状況(アンケート)

#### (6) こどもや子育てのイメージ

あなたが思うこどもや子育てのイメージはどのようなものですか。  
あてはまるものを3つまで選んでください。

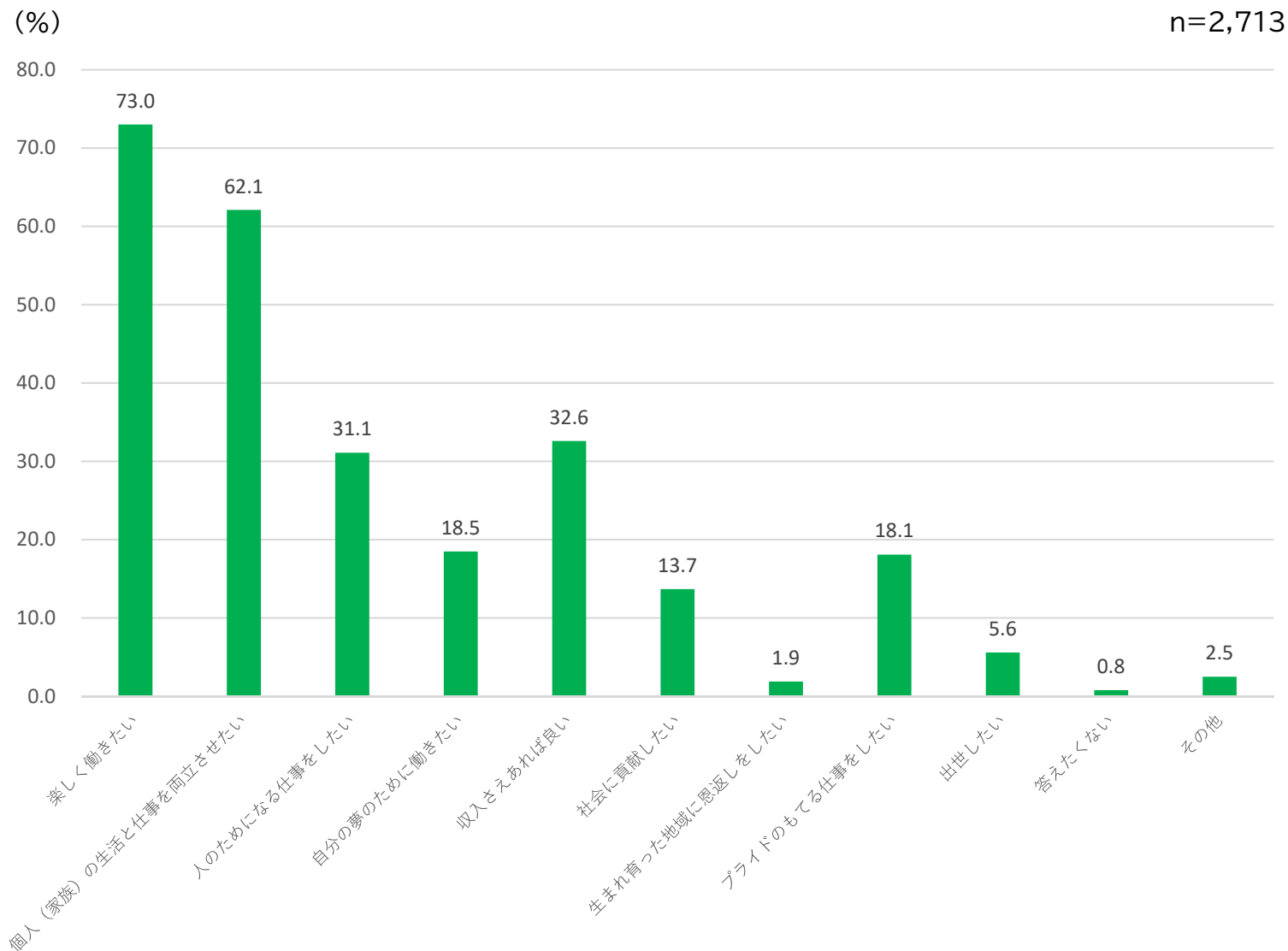


## Ⅱ 調査の状況 1 若者世代意識調査(アンケート)

### 4 調査の状況(アンケート)

#### (7) 仕事を選ぶ上で大事にすること

あなたが思う仕事を選ぶうえで大事にすること(したこと)はどのようなものですか。あてはまるものを3つまで選んでください。



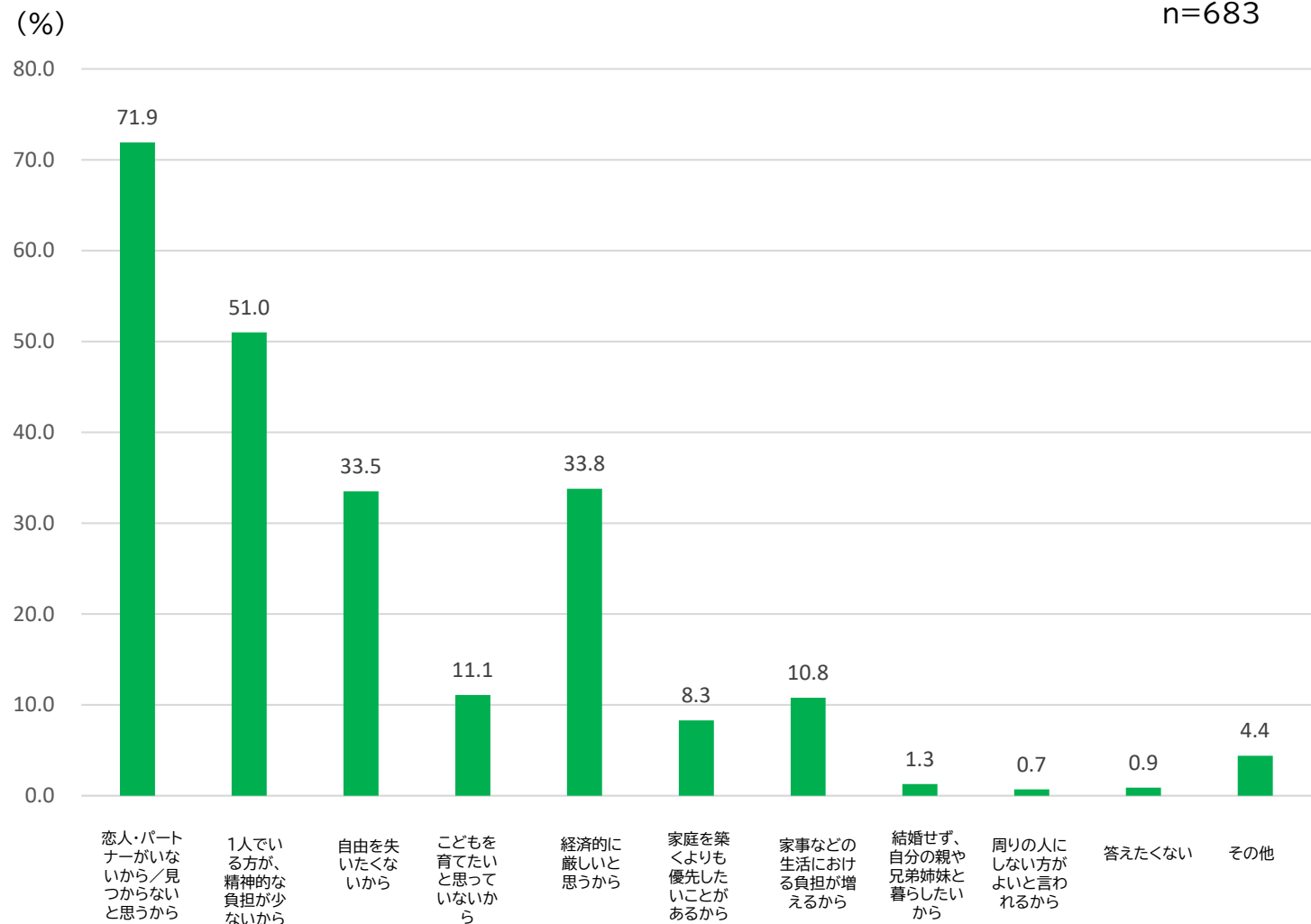
## Ⅱ 調査の状況 1 若者世代意識調査(アンケート)

### 4 調査の状況(アンケート)

#### (8) 将来結婚しないと思う理由

あなたが、将来結婚しないと思う理由について、あてはまるものを3つまで選んでください。

※「実際になりそうな(既になっている)生き方」で、結婚しないを選んだ人(18歳以上)





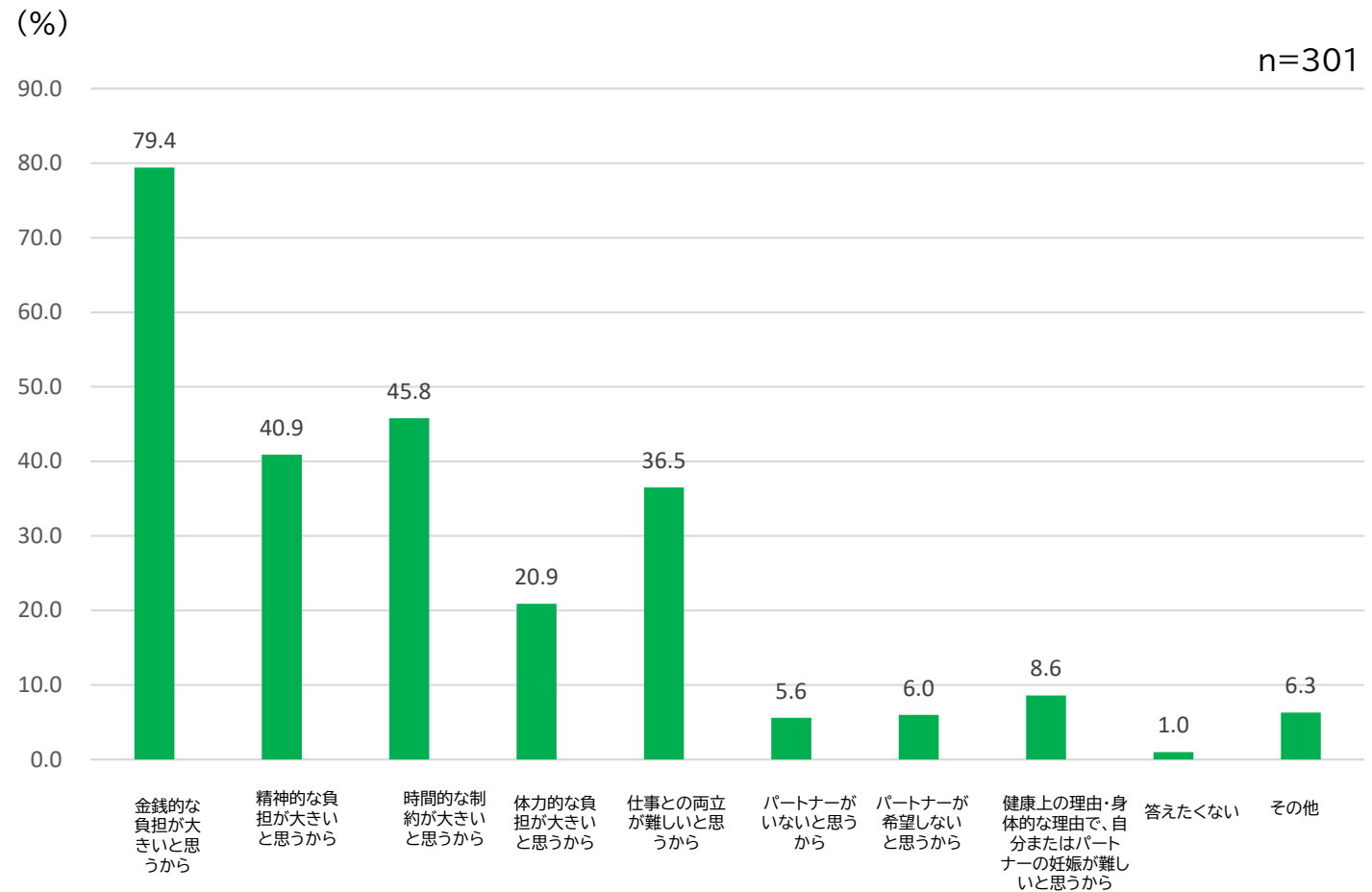
## Ⅱ 調査の状況 1 若者世代意識調査(アンケート)

### 4 調査の状況(アンケート)

#### (9) 将来子どもを希望しないと思う理由

あなたが、子どもを希望しない理由について、あてはまるものを3つまで選んでください。

※「実際になりそうな(既になっている)生き方」で、子どもを持たないを選んだ人(18歳以上)



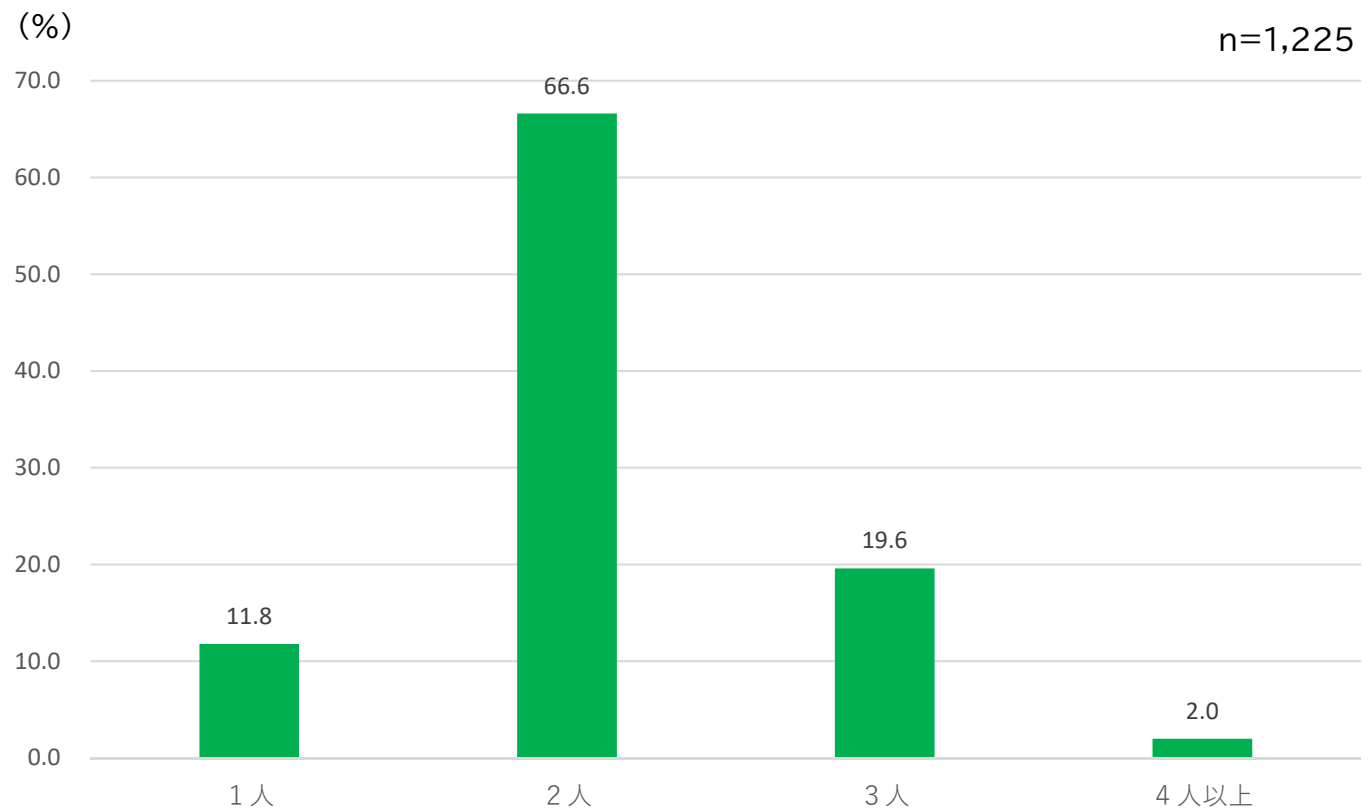
## Ⅱ 調査の状況 1 若者世代意識調査(アンケート)

### 4 調査の状況(アンケート)

#### (10) 希望こども人数

あなたが、希望する理想のこどもの人数は何人ですか。最も近いと思われるものを1つだけ選んでください。

※「実際になりそうな(既になっている)生き方」で、こどもを持つを選んだ人(18歳以上)



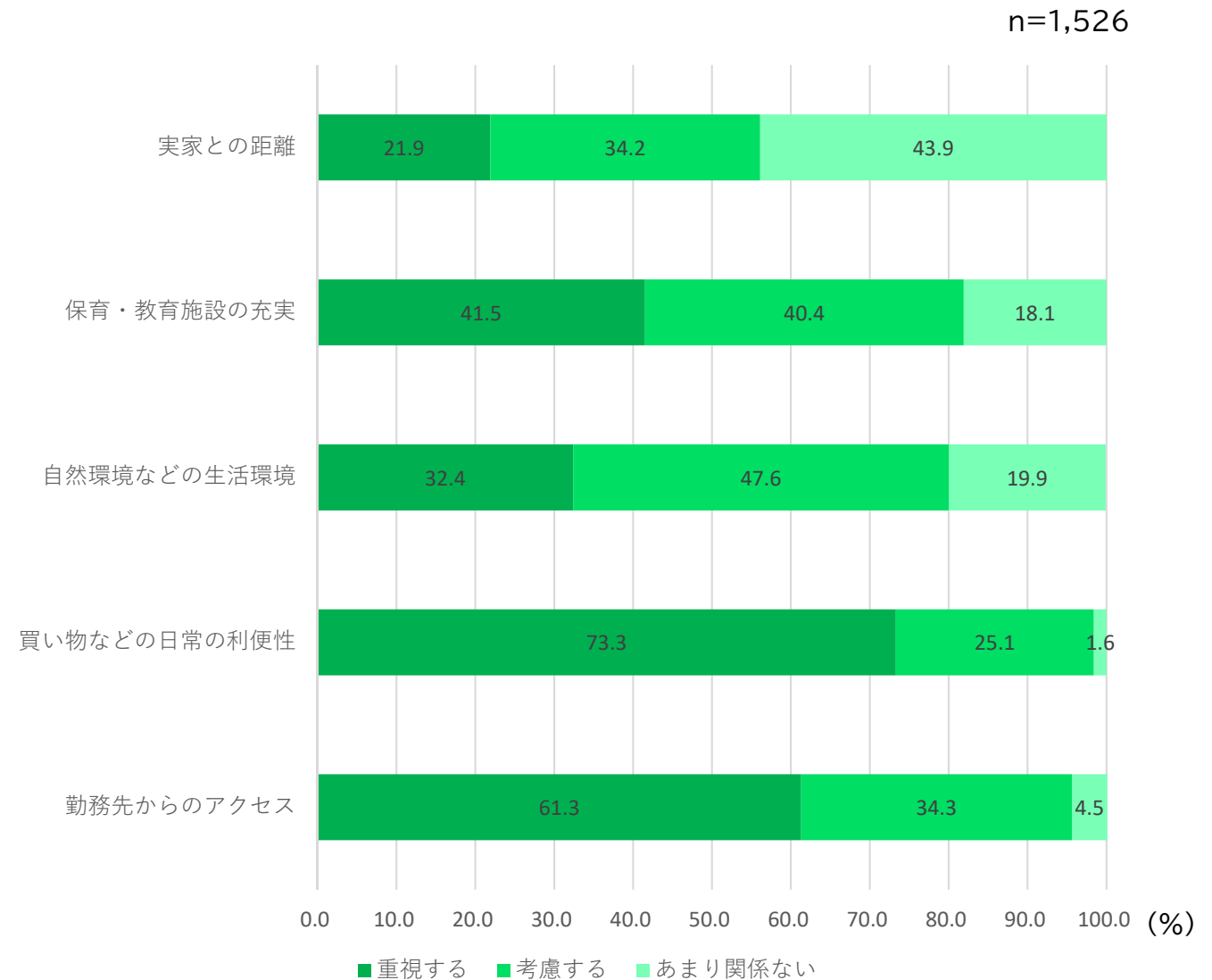
## Ⅱ 調査の状況 1 若者世代意識調査(アンケート)

### 4 調査の状況(アンケート)

#### (11)-1 居住地の選択理由

あなたが、結婚(パートナーとの同居を含む)直後に居住する(した)場所として重要視する(した)条件について、それぞれあてはまるものを1つずつお選びください。

(18歳以上)



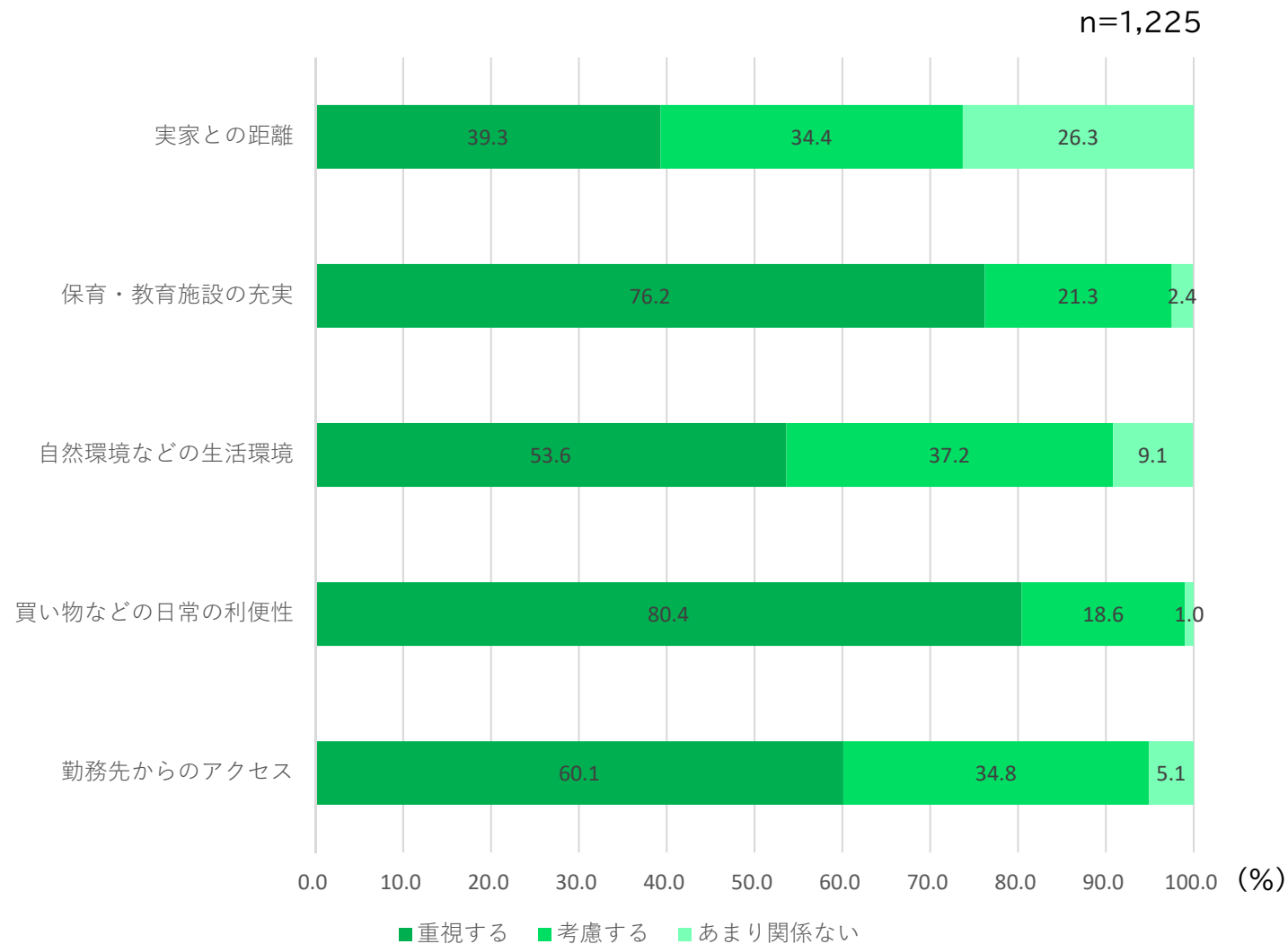
## Ⅱ 調査の状況 1 若者世代意識調査(アンケート)

### 4 調査の状況(アンケート)

#### (11)-2 居住地の選択理由

あなたが、子育て期間に居住する(した)場所として重要視する(した)条件について、それぞれあてはまるものを1つずつお選びください。

(18歳以上)

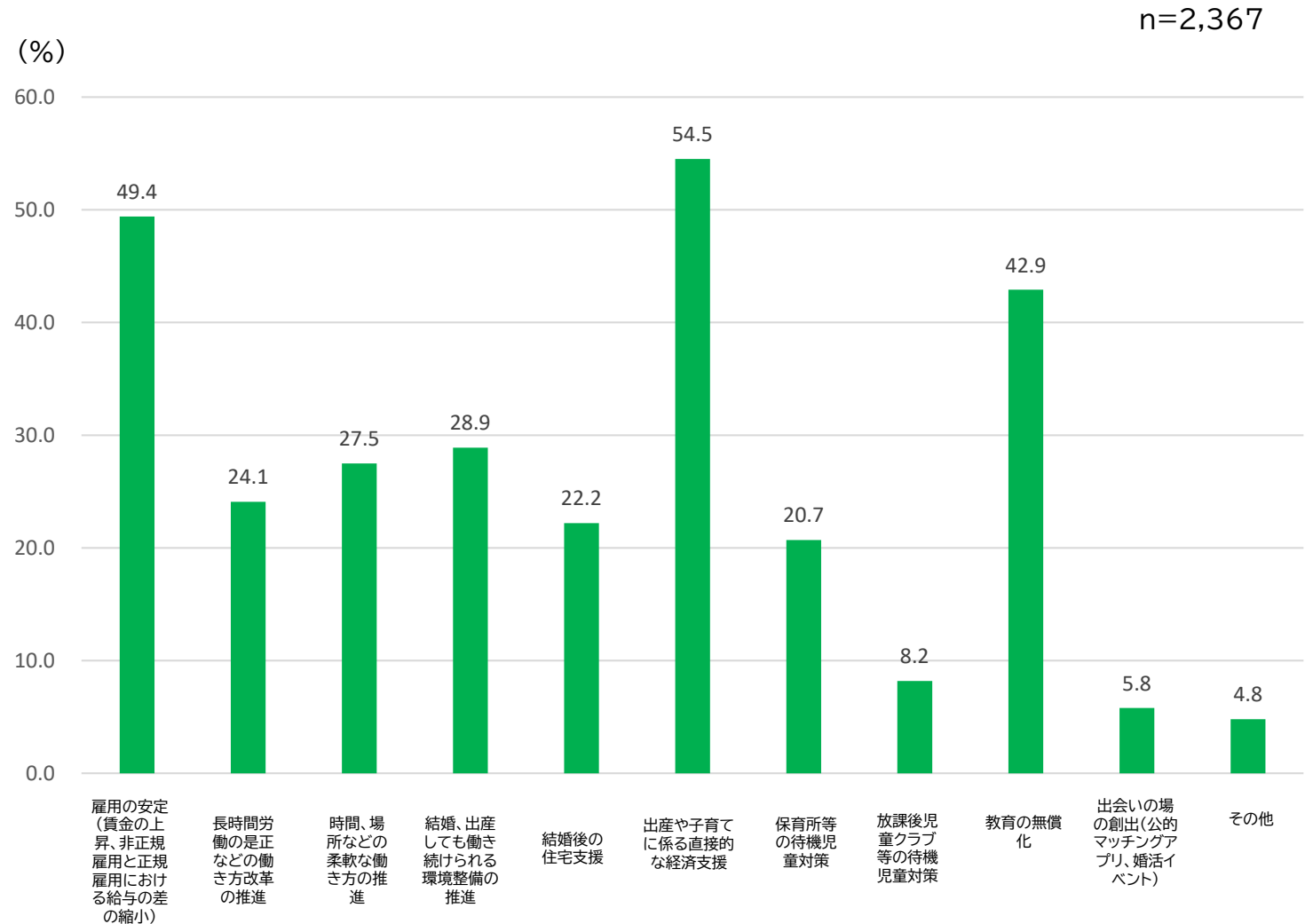


## Ⅱ 調査の状況 1 若者世代意識調査(アンケート)

### 4 調査の状況(アンケート)

#### (12) 結婚・妊娠・出産・子育て支援で横浜市や政府に望むことについて

結婚・妊娠・出産・子育ての希望を実現するために、あなたが横浜市や政府に実施して欲しい政策は何ですか。とくにあてはまるものを3つまで選んでください。



## Ⅱ 調査の状況 1 若者世代意識調査(インタビュー)

### 4 調査の状況(インタビュー)

#### (1) 日常生活について

##### 日常の生活満足度の変化

- ・学生の時には不満はなかったが、自らの力で生活をする事になり、日々の満足度が下がった。(20代女)
- ・学生の時には特に不満もなく、満足度が高かったが、社会に出ることで社会の厳しさを知り、満足度が下がった。(20代男)
- ・学生の頃は楽しかったが、社会人になる不安で満足度下がった。(20代男)

## Ⅱ 調査の状況 1 若者世代意識調査(インタビュー)

### 4 調査の状況(インタビュー)

#### (2) 子育てと仕事の関係の理想と現実のギャップについて

##### 理想と現実のギャップが生じている理由(その1)

- ・結婚しないのは、収入の不安が大きい。(20代男)
- ・漠然と、結婚はまだ早いと感じてしまう。(20代男)
- ・女性が働きやすい環境になったことはいいことだが、双方が働いていることで、こどもの面倒を夫婦のどちらが見るのかという問題があるのではないか。(20代男)
- ・結婚は単体で考えていない。結婚は子育てまでつながっているという認識で、その部分で経済的なハードルを感じている。(20代女)
- ・出会いにも原因があるのではないか。いい出会いが見つからないため、結婚やこどもの事を考えられないのではないか。(20代女)
- ・SNSでネガティブな情報が多く発信されているため、将来のイメージがネガティブになってしまう。特に子育てに係る経済面での不安が多い。(20代女)
- ・ネガティブな情報が過多となり、対応を考えすぎている間に、時間が経過している。独身の時間が長くなると、結婚はもういいかとなってくる。(20代女)
- ・新卒で就職した際に積み立てNISAを始めた。その時に、どのくらいのお金が人生で必要になるのかを知りたくて、結婚や子育てにかかるお金のことなどをSNSなどで調べ始めた。こどもにかかるお金など考えると、自分がやりたいことへの時間が短くなったり、夫婦の時間が短くなると感じた。(20代男)

## Ⅱ 調査の状況 1 若者世代意識調査(インタビュー)

### 4 調査の状況(インタビュー)

#### (3) 子育てと仕事の関係の理想と現実のギャップについて

##### 理想と現実のギャップが生じている理由(その2)

- ・友人など周囲の結婚や、両親の生き方を見ていて自分の将来ことを考え始めた。結婚はするが子どもは持たないかもしれない。漠然と不安な要素が多く、ポジティブになれない。子どもがいると自分の理想のキャリアを描けなくなる。(20代女)
- ・インターネットやSNSで子育ての情報を見聞きする。社会的に物騒な中で子どもを持つことに対してネガティブな印象がある。金銭面で心配がなくなると子供を持ちたいとあまり思わない。(20代女)
- ・自分の親や職場を見て、子どもを育てながら働くというのが厳しくなっているのではと思っている。(30代女)
- ・推し活が原因なのではないか。時間とお金を推し活に使っている。会社の後輩いわく、普通の生き方を僕はできません、と彼らは言っている。今までは当然だった結婚や出産が選択肢の1つになっている。(30代男)



## Ⅱ 調査の状況 1 若者世代意識調査(インタビュー)

### 4 調査の状況(インタビュー)

#### (4) 結婚のイメージについて

##### 結婚のイメージが形成される 要因

- ・SNS(既婚者)のポストをみるとネガティブな発信が多く、結婚に対して悪いイメージがある。(20代男)
- ・実際に経験していないことなので、不安が大きい。(20代男)
- ・職場での話、友人の話も影響あると思う。(20代女)
- ・日本人の性質として、プラスの話をしないため、結婚に限らず、ポジティブな話をすることがないのでないか。結果、ネガティブな話を聞く機会が増え、ただただ不安になっていると思う。(20代女)
- ・自分の趣味や生活を大事にしたい。生活リズムが乱されたくない。自分は独身で生きたいという思いが強いので、ネガティブなイメージが強い。(20代男)
- ・結婚前はポジティブなイメージもあったが、結婚後は金銭面の負担を感じるようになった。結婚前のイメージはインターネットや友人から。子育て支援に関する情報は特に見聞きしていない。(20代男)
- ・自分の考えなどを共有したい思いがあり、結婚にポジティブなイメージがある。インスタグラムで子育て情報を町ごとにまとめているアカウントを見ることがある。(20代男)
- ・自分だけなら頑張れなくても、家族がいれば仕事や家事へのモチベーションにつながると思う。(20代女)
- ・結婚すると自分が個でなくなり、ちょっとだけネガティブな気持ちになった。自分が自由に動けないところが難しい。(30代女)

## Ⅱ 調査の状況 1 若者世代意識調査(インタビュー)

### 4 調査の状況(インタビュー)

#### (5) こども・子育てのイメージについて

##### こども・子育てのイメージが 形成される要因(その1)

- ・ニュースで子育てに関するネガティブな情報を聞くことで、自分はしっかりと子育てをしないといけないとプレッシャーを感じる。(20代男)
- ・子育てをしている人の状況を見ていると、苦労の方が目に付くことが多い。(20代男)
- ・本当は、仕事を辞めたいと思うが、経済的理由から仕事を継続しないといけないと思う。残業と育児で、自分の時間も無くなる。将来への不安からこども・子育てに対してマイナスのイメージを持つ。(20代女)
- ・兄弟が多く、兄弟の世話をすることで、プレママ体験をしていたので、こども・子育てにネガティブなイメージはない。(20代女)
- ・ネガティブな情報はどんどん入っているが、子育て支援の情報は自分から取りにいかない限り入手できない。結婚もしていない状況では、必要性を感じず、自ら調べることもないので、不安だけが高まる。(20代女)
- ・まず、金銭面での負担が大きいというイメージが大きい。また、日頃の生活においても、子育てのために仕事に集中できないイメージがある。親戚の様子やSNSがこういったイメージを作り上げている。(20代男)

## Ⅱ 調査の状況 1 若者世代意識調査(インタビュー)

### 4 調査の状況(インタビュー)

#### (5) こども・子育てのイメージについて

##### こども・子育てのイメージが 形成される要因(その2)

- ・ポジティブな面として、友人や職場の先輩から、子どもがいると生活のモチベーションが上がるという話を聞く。ネガティブな面はSNSなどで金銭面の負担の話をよく見る。(20代男)
- ・子供のいる上司は、指導力やコミュニケーション能力が高いイメージがある。子育てを通じて自分の成長にもつながる。(20代男)
- ・自分の祖父母を介護する両親を見て、自分の老後、介護してもらえる子どもがいるのは安心材料になる。(20代男)
- ・周囲の話を聞いて、ポジティブもネガティブも半々くらいのイメージ。SNSでは個人の責任にフォーカスされてマイナスなイメージな一方で、友人などからはポジティブなことを聞く。(20代女)
- ・金銭面や責任感でのマイナスイメージ大きい。習い事や教育など子どものやりたいことをできる親でいるためには金銭的負担が大きい。(20代男)
- ・子育てをしている周りを見て、責任感が伴うと思っていた。その勇気がなく、なかなかこどもがほしいと思うまでに時間がかかった。(30代女)

## Ⅱ 調査の状況 1 若者世代意識調査(インタビュー)

### 4 調査の状況(インタビュー)

#### (6) 結婚・妊娠・出産・子育て支援で横浜市や政府に望むことについて

##### 結婚・妊娠・出産・子育て支援 で横浜市や政府に望むこと (その1)

- ・結婚すると、子育てまで視野に入れることになるので、経済的な側面を優先する。(20代男)
- ・結婚しようと思えば、出会いの場は自分で用意できるが、子育ては何ともならないので、行政の支援が必要だと思う。(20代女)
- ・現実的に見て、結婚は一時的なものではない。子育ては期間が長く、行政の支援が求められる。(20代女)
- ・結婚も子育ても、まずは、お金の不安を無くすことが最優先。(20代男)
- ・物価上昇に対して賃金が見合っていない。子育てにかかる費用のカバーのためにも賃金の上昇が必要だと思う。(20代男)
- ・行政には出会いの場の創出よりも、金銭面の直接的な支援を優先してほしい。(20代男)
- ・お金が無ければ何もできない。出会いの場については、今はSNSなどでいくらでもつながれるので、行政には経済的支援を優先してほしい。(20代男)
- ・自分や同じ世代の友人の優先順位通りに結果が並んでいると思う。近所でも、引っ越してきた人が子育て側に至る前で止まってしまっている。そのような状況を見ると、自分の将来の生活への不安を感じている。(20代女)

## Ⅱ 調査の状況 1 若者世代意識調査(インタビュー)

### 4 調査の状況(インタビュー)

#### (6) 結婚・妊娠・出産・子育て支援で横浜市や政府に望むことについて

##### 結婚・妊娠・出産・子育て支援 で横浜市や政府に望むこと (その2)

- ・収入の少なさで交際費にまで費用をかけられないという話を聞く。それが出会いの場が減少している要因の一つではないかと思う。そういった面では、行政が出会いの場を設けることもあり得るのではないか。街コンやマッチングアプリなど行政ならではの取組で、未婚の人のみや本人確認をしっかりとものは安心感があると思う。ただし、マッチングアプリは民間で運営しているので、民業を圧迫する可能性もあるので、慎重に実施してもらいたい。(20代女)
- ・そもそも、個別の自治体の子育て支援策の全てを負うという状況が異常。各都市間で施策の競争が発生していて、住む場所によって受けられる施策が違う。これだけ人口減少が騒がれているのだから、国が一律で支援し、住む場所によって格差が生じる状況を改善すべき。(30代女)

# 「若者世代意識調査」まとめ

## 理想の生き方

子育てと仕事との関係で、理想の生き方では、  
「結婚し、こどもを持ち、仕事を続ける」が最多の49.0%、「結婚せず(パートナーを持たず)、仕事を続ける」が9.2%

子育てと仕事との関係で、理想は理想として、実際になりそうな(既になっている)生き方では、  
「結婚し、こどもを持ち、仕事を続ける」が最多の38.5%、「結婚せず(パートナーを持たず)、仕事を続ける」が29.8%

➡ 理想と実際になりそうな姿にギャップが生じている。インタビューでは、経済的な不安、子育てへの不安の声があった。

## 結婚・こどものイメージ

結婚のイメージでは、  
1位:楽しみや喜び(62.1%)、2位:精神的な安らぎ(60.1%)、3位:親や周囲の安心(35.6%)

こども・子育てのイメージでは、  
1位:楽しみや喜び(68.9%)、2位:負担や苦勞(54.6%)、3位:自身の成長(45.3%)

➡ こども・子育ては「負担・苦勞」のイメージが大きい。インタビューでは、(子育てを)経験していないことからくる不安、SNSからネガティブな情報が入ってくるとの声があった。

## 少子化対策で行政に望むこと

結婚・妊娠・出産・子育ての希望を実現するために、行政に実施してほしい政策では、  
1位:出産や子育てに係る直接的な経済支援(54.5%)  
2位:雇用の安定(賃金の上昇、非正規雇用と正規雇用における給与の差の縮小)(49.4%)  
3位:教育の無償化(42.9%)

➡ 【出産や子育てに係る経済的な負担を軽減し、若者が将来の展望が描ける状況が望まれている。インタビューでは、子育て期間の経済的不安の声があった。

若者世代がどのような不安を抱えているかについて把握しました。

引き続き、不安の背景にある要因分析を進め(性別、ライフステージ別等)、市民目線での政策課題検討につなげます。

## Ⅱ 調査の状況 2 市民生活・needs調査<その1>

### 1 調査名称

市民生活・needs調査<その1>※

### 2 調査目的

従来の市民意識調査で実施していた、市民の生活や暮らしの状況、横浜への愛着、定住意向などを引き続き把握しつつ、これまで把握してこなかった、行政への不満足なところにも焦点をあてた調査へと質的な転換を図り、市民生活等の基礎的・全体的な現状把握や、これからの市政推進において、留意していくべき事項をできる限り客観的に捉えていくことを通じ、横浜の持続的な発展に向けて、短期的対策のならず、中長期的に必要な政策等に生かすために実施しました。

### 3 調査対象

【調査地域】 横浜市全域  
【調査対象】 横浜市内に居住する満18歳以上の男女個人  
【抽出人数】 5,000人：日本人4,848人、外国人152人  
【抽出方法】 日本人、外国籍市民ともに住民基本台帳から単純無作為抽出  
【調査方法】 郵送法・インターネット回答方式併用  
【調査期間】 令和6年6月

### 4 回収結果

【回収件数】 2,597件(郵送回答756件／インターネット回答1,841件)  
【回収率】 51.9% (インターネット回答 70.9%)



## Ⅱ 調査の状況 2 市民生活・needs調査<その1>

### 5 調査の状況

#### (1) 横浜の魅力(横浜の魅力、定住意識)

「横浜」について魅力を感じる  
点はどんなところですか。  
(〇は3つまで)



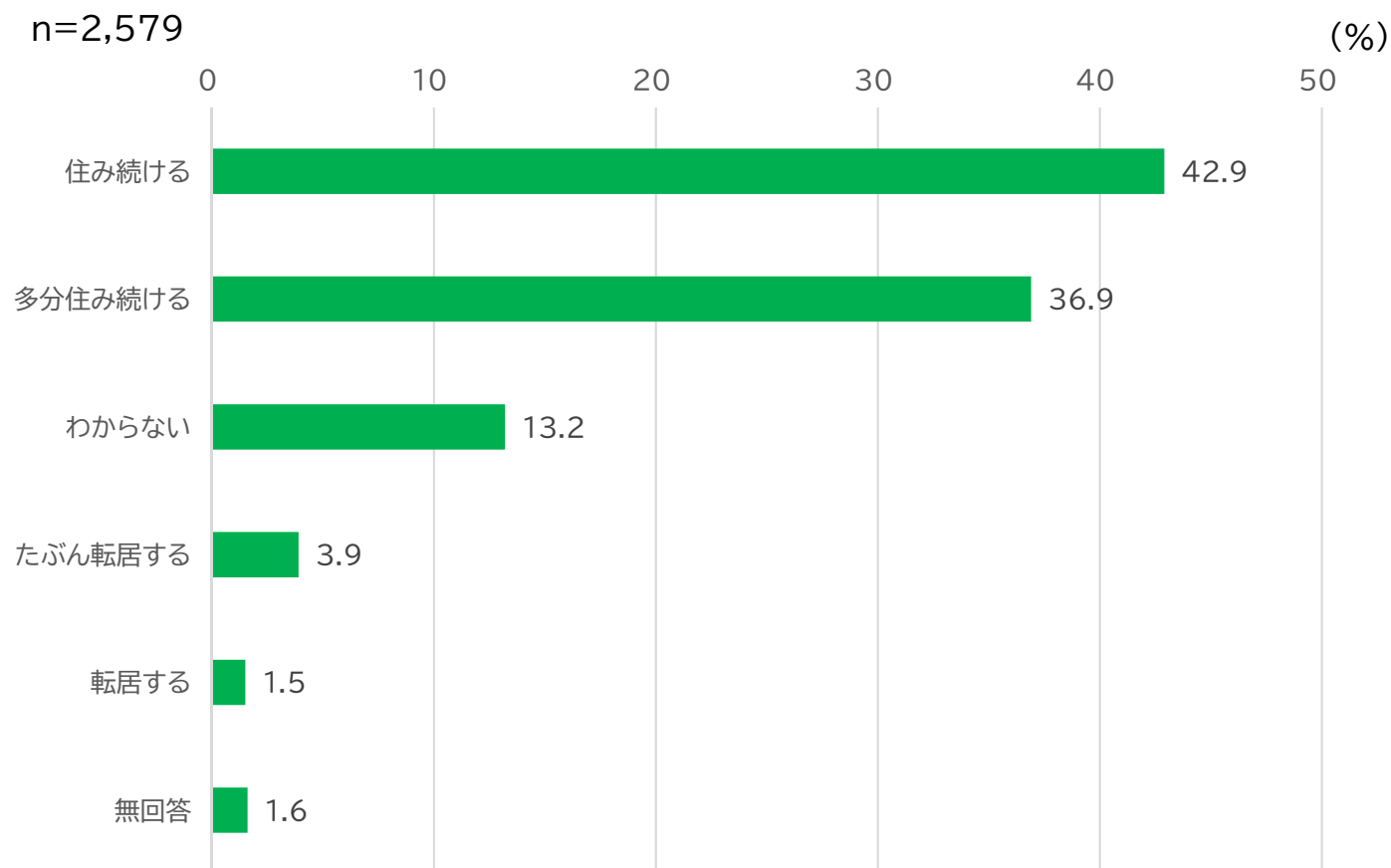


## Ⅱ 調査の状況 2 市民生活・needs調査<その1>

### 5 調査の状況

#### (1) 横浜の魅力(横浜の魅力、定住意識)

あなたは、これからもずっと  
横浜市に住み続けますか。  
(○は1つ)

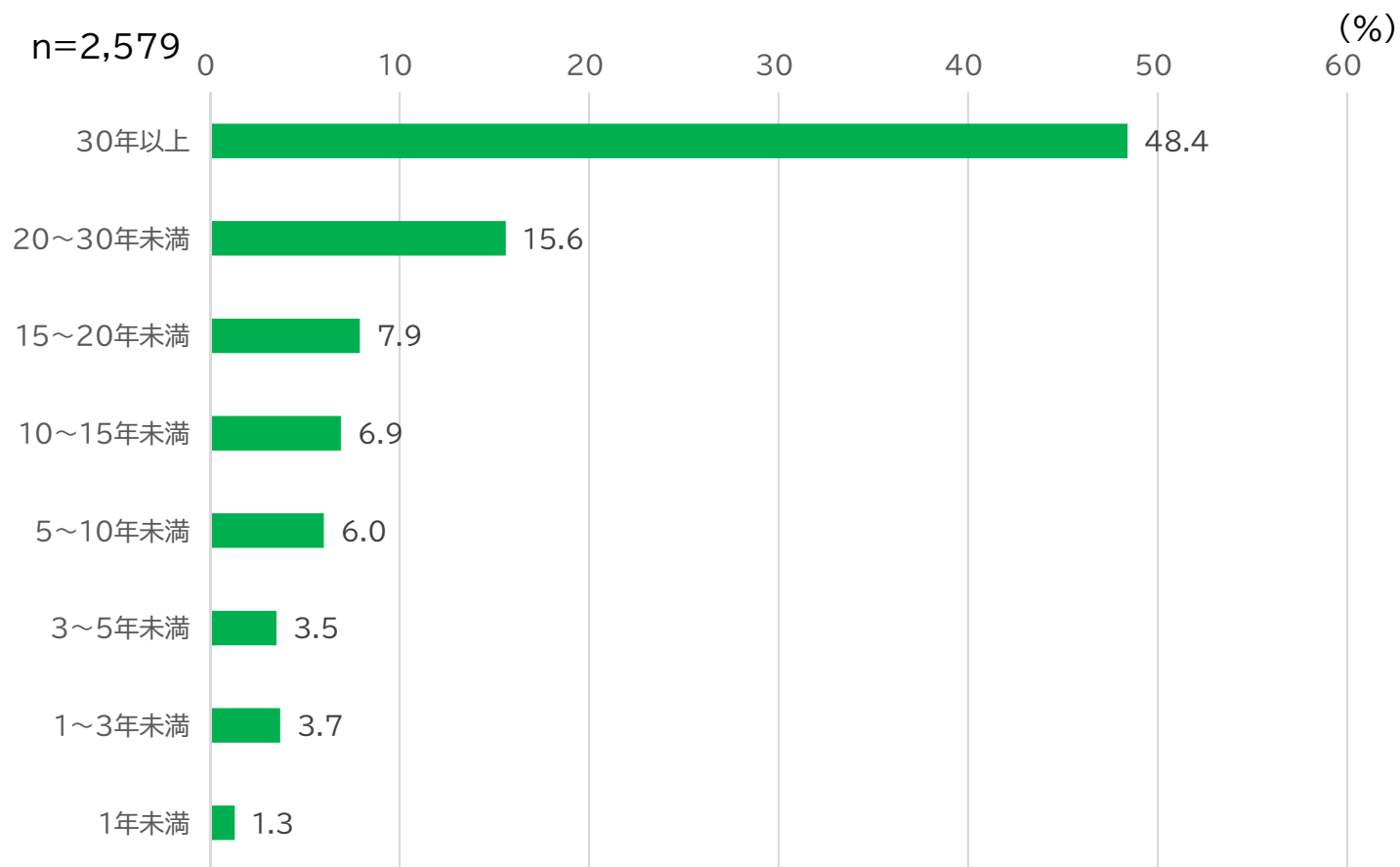


## Ⅱ 調査の状況 2 市民生活・needs調査<その1>

### 5 調査の状況

#### (1) 横浜の魅力(横浜の魅力、定住意識)

あなたが横浜市にお住まいになって、何年になりますか。  
※通算(○は1つ)

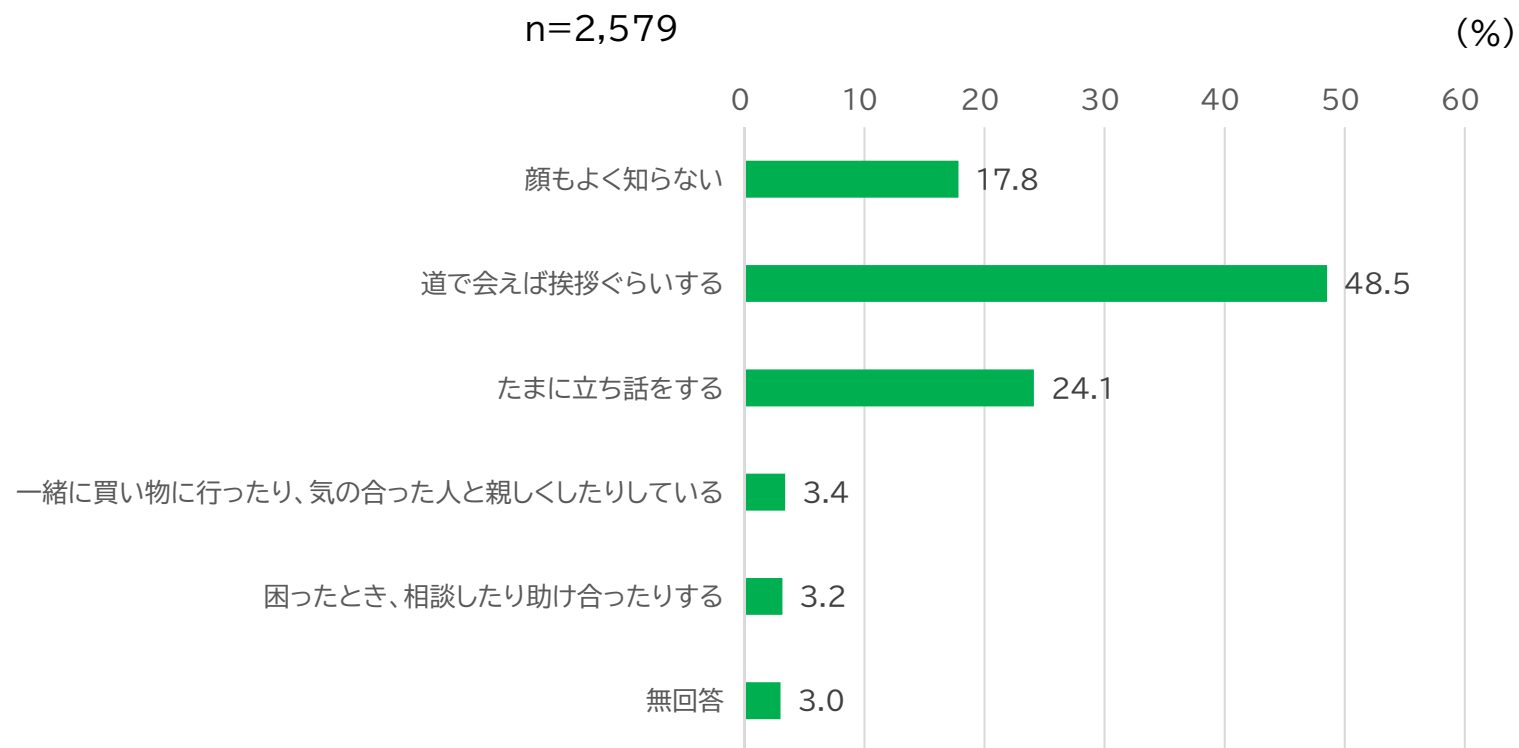


## Ⅱ 調査の状況 2 市民生活・needs調査<その1>

### 5 調査の状況

#### (2) 地域への愛着(地域における繋がり、地域への愛着)

あなたは、隣近所と普段どのようなつき合い方をしていますか。(〇は1つ)

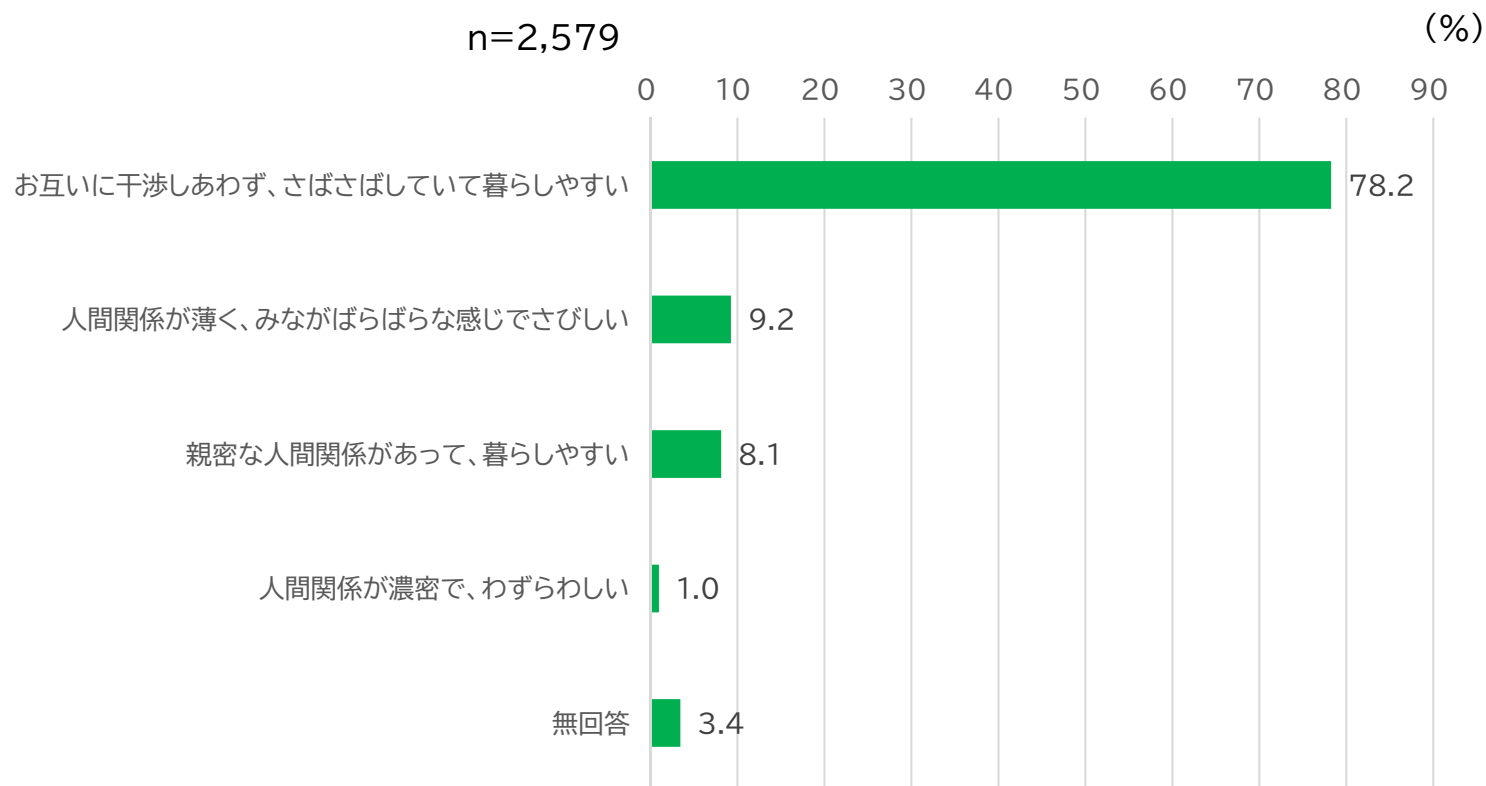


## Ⅱ 調査の状況 2 市民生活・needs調査<その1>

### 5 調査の状況

#### (2) 地域への愛着(地域における繋がり、地域への愛着)

あなたは、隣近所とのつき合いをどのように感じていますか。(○は1つ)



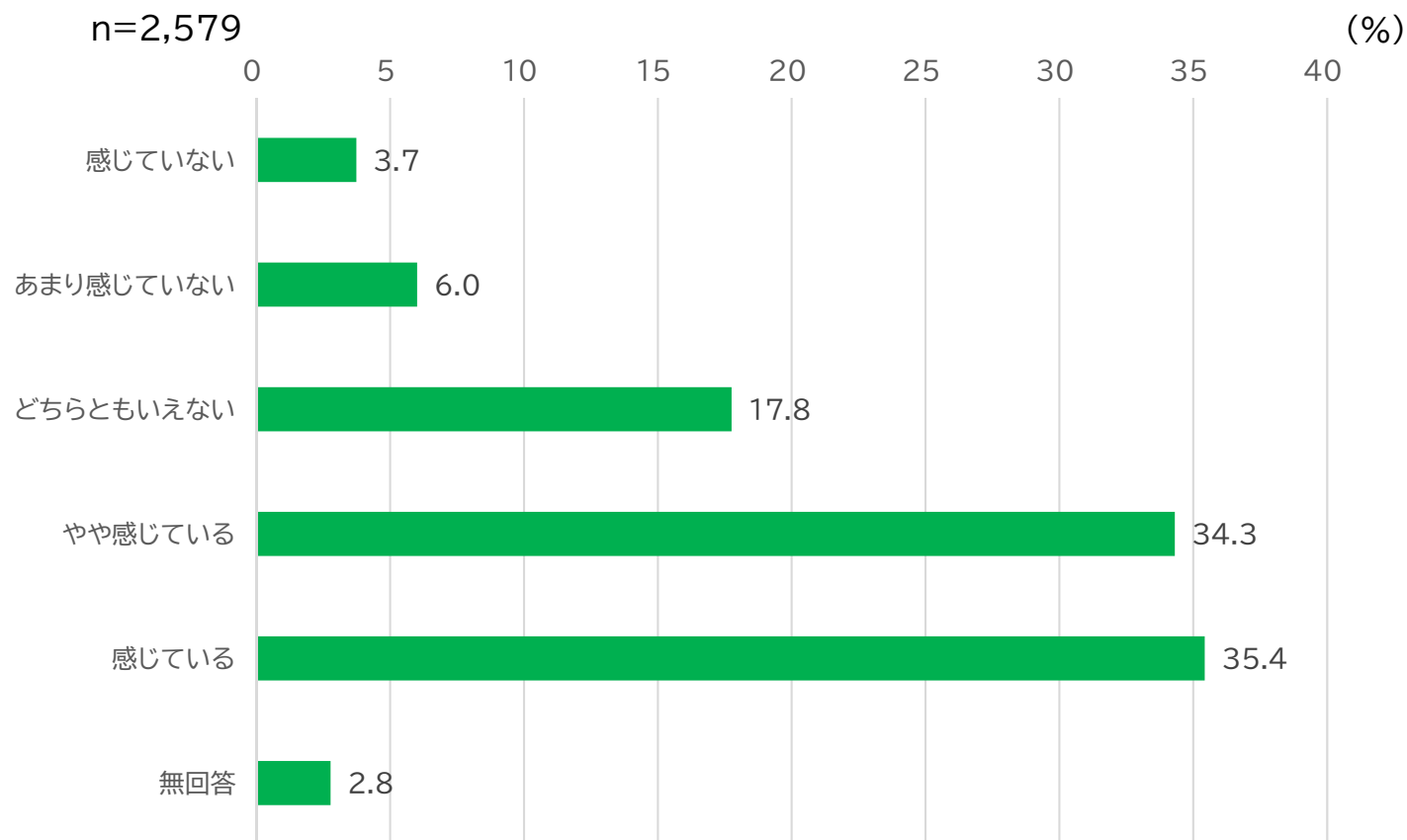
## Ⅱ 調査の状況 2 市民生活・needs調査<その1>

### 5 調査の状況

#### (2) 地域への愛着(地域における繋がり、地域への愛着)

あなたは、横浜に対して、愛着  
や誇りを感じていますか。  
(○はそれぞれ1つ)

【横浜に対して】



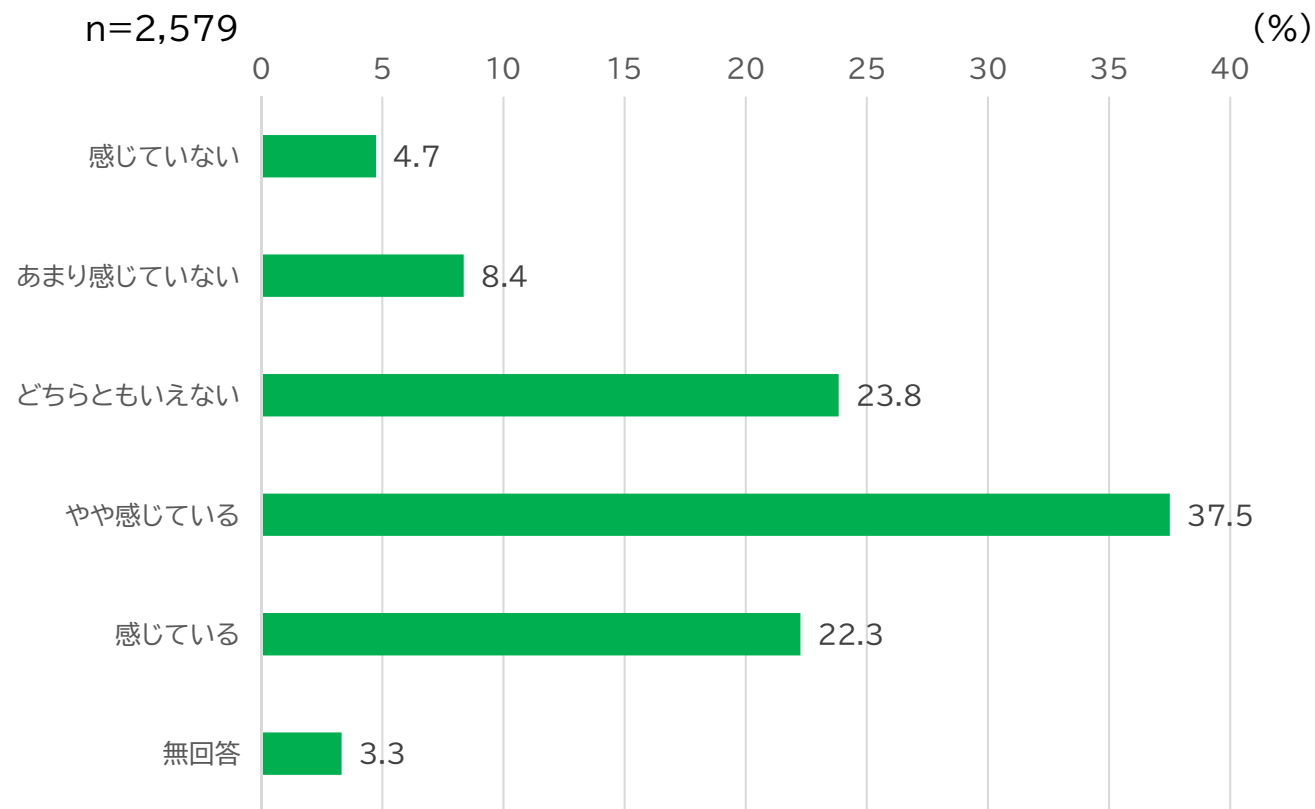
## Ⅱ 調査の状況 2 市民生活・needs調査<その1>

### 5 調査の状況

#### (2) 地域への愛着(地域における繋がり、地域への愛着)

あなたは、お住まいの区に対して、愛着や誇りを感じていますか。  
(〇はそれぞれ1つ)

【区に対して】



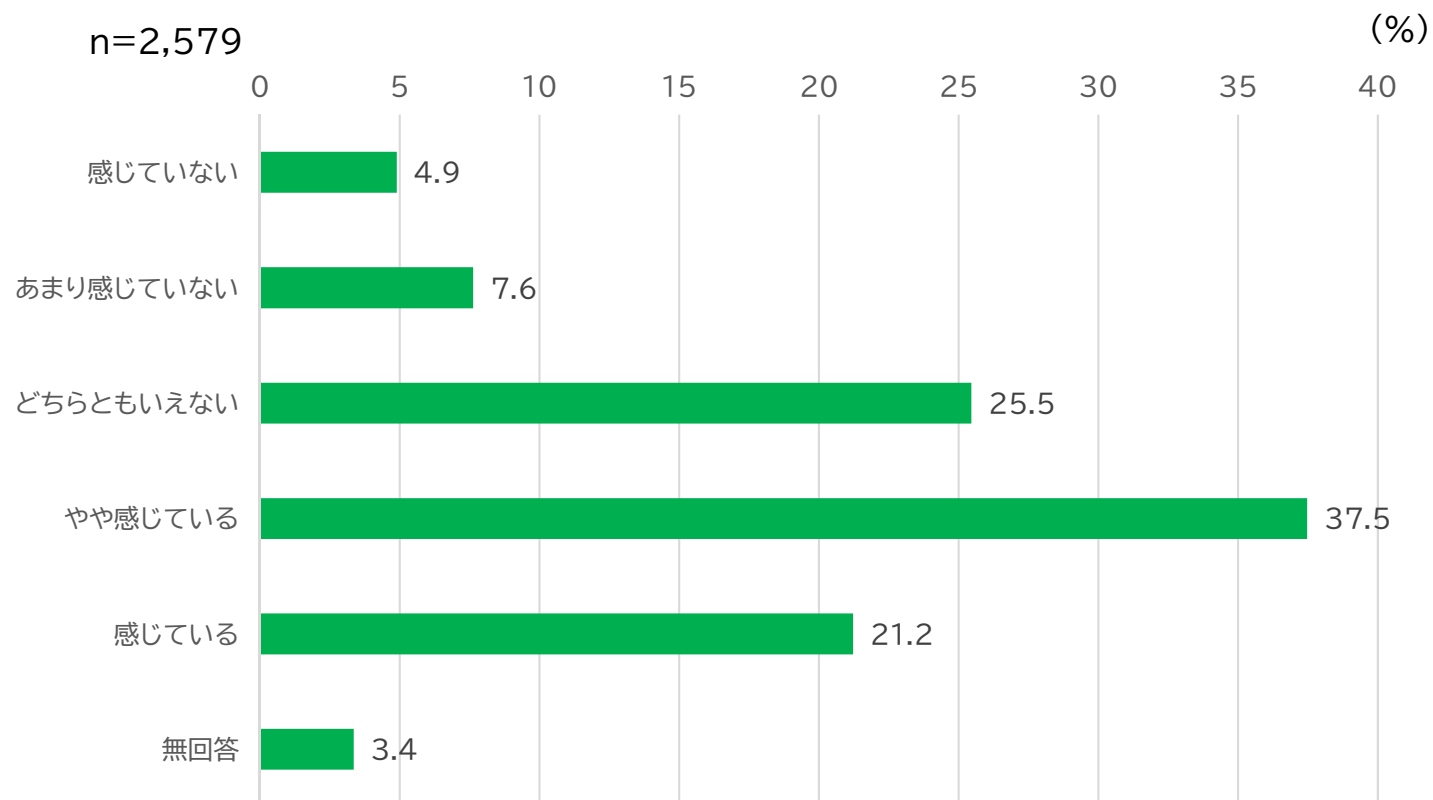
## Ⅱ 調査の状況 2 市民生活・needs調査<その1>

### 5 調査の状況

#### (2) 地域への愛着(地域における繋がり、地域への愛着)

あなたは、周辺地域に対して、  
愛着や誇りを感じていますか。  
(○はそれぞれ1つ)

【周辺地域に対して】

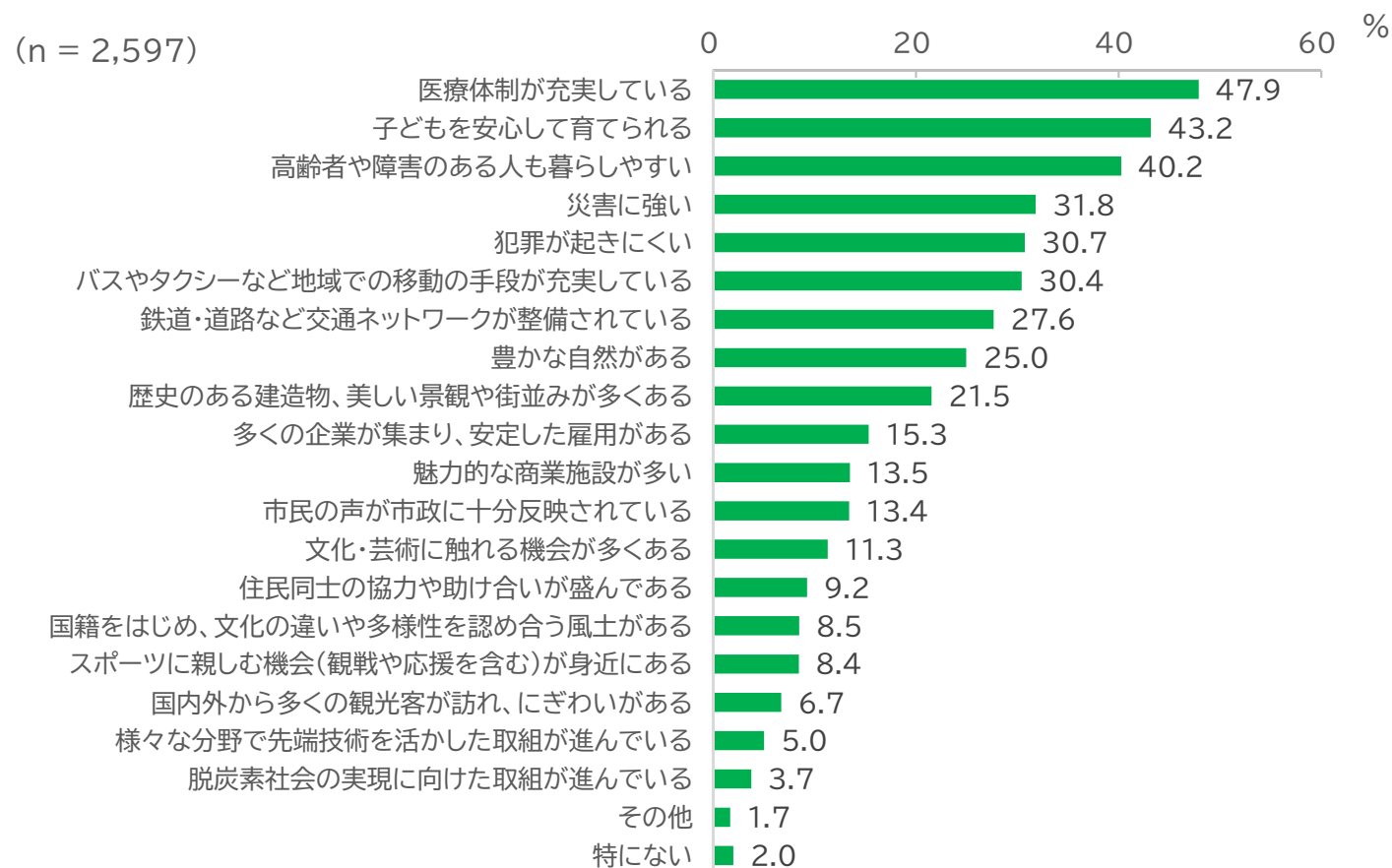


## Ⅱ 調査の状況 2 市民生活・needs調査<その1>

### 5 調査の状況

#### (3) 今後の横浜のまち

今後の横浜のまちについて、あなたはどのようなまちにしたいと思いますか。最も優先したいものを5つまでお選びください。(〇は5つまで)





## Ⅱ 調査の状況 3 パマトコ利用者調査

### 1 調査名称

パマトコ利用者調査

### 2 調査目的

子育て世代に対し、本市が進めている取組への満足度や、さらに期待するところ、不満なところ等について把握します。

### 3 調査対象

【調査地域】 横浜市全域

【調査対象】 横浜市内に居住する妊婦及び、0～12歳までのこどもの保護者

【対象人数】 48,448人(調査時点におけるパマトコ登録者)

【調査方法】 パマトコアプリにおけるアンケート機能を用いたアンケート

【調査期間】 令和6年11月～12月

### 4 回収結果

【回収件数】 3,679件

【回収率】 7.6%

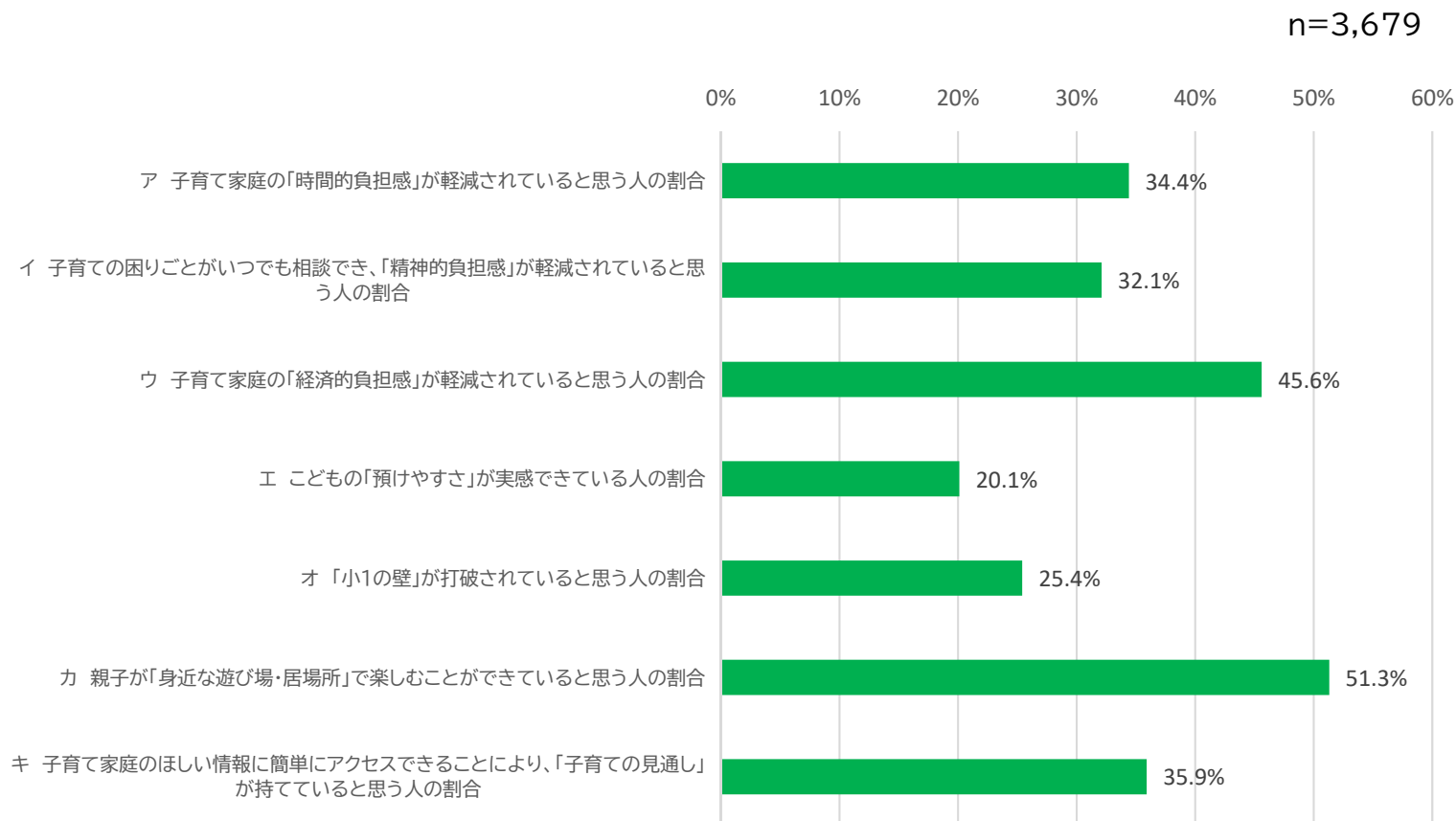
## Ⅱ 調査の状況 3 パマトコ利用者調査

### 1 調査の状況

#### (1) 横浜市の子育て支援についての考え

横浜市の子育て支援について、あなたの考えを伺います。

- ア 横浜市施策によって、子育ての時間的な負担が軽減されていると思いますか。
- イ 横浜市施策によって、子育ての精神的負担が軽減されていると思いますか。
- ウ 横浜市施策によって、子育ての経済的な負担が軽減されていると思いますか。
- エ 仕事、病気、冠婚葬祭、リフレッシュなど、こどもを預ける必要がある時に利用できる公共施設や公共サービスが揃っていると思いますか。
- オ こどもが小学校に入学すると、未就学期よりも仕事と家事・子育ての両立が困難になる「小1の壁」が、横浜市施策によって、軽減されていると思いますか。
- カ 親子が楽しめる、身近な遊び場・居場所(公共施設、公共サービス)があると思いますか。
- キ 横浜市子育て応援サイト・アプリ「パマトコ」により、子育てに関する制度、必要な手続き、イベント等の情報を簡単に得られると思いますか。



※7年度予算への反映及び第3期「横浜市子ども・子育て支援事業計画/横浜市子ども計画(わくわくプラン)」の指標検討に活用